

令和元年度 第1回九州森林管理局保護林管理委員会

【参考資料2】

保護林の統合について  
(位置図・写真・保護林管理方針書)

令和元年7月19日

林野庁 九州森林管理局

計画保全部 計画課

# 目次

点線囲い：今年度統合を検討する保護林

保護林同士が隣接している保護林

■	上畑ツグハ	希少	} 1
	狩倉スタジイ	希少	
■	英彦スギ	希少	} 4
	英彦モミ	希少	
■	普賢岳	群集	} 8
	野岳ツグハ	希少	
■	市房モミ	希少	} 11
	市房ツガ	希少	
	市房ゴイシ	希少	
■	屋久島	生態	} 16
	瀬切川ツグハ	希少	

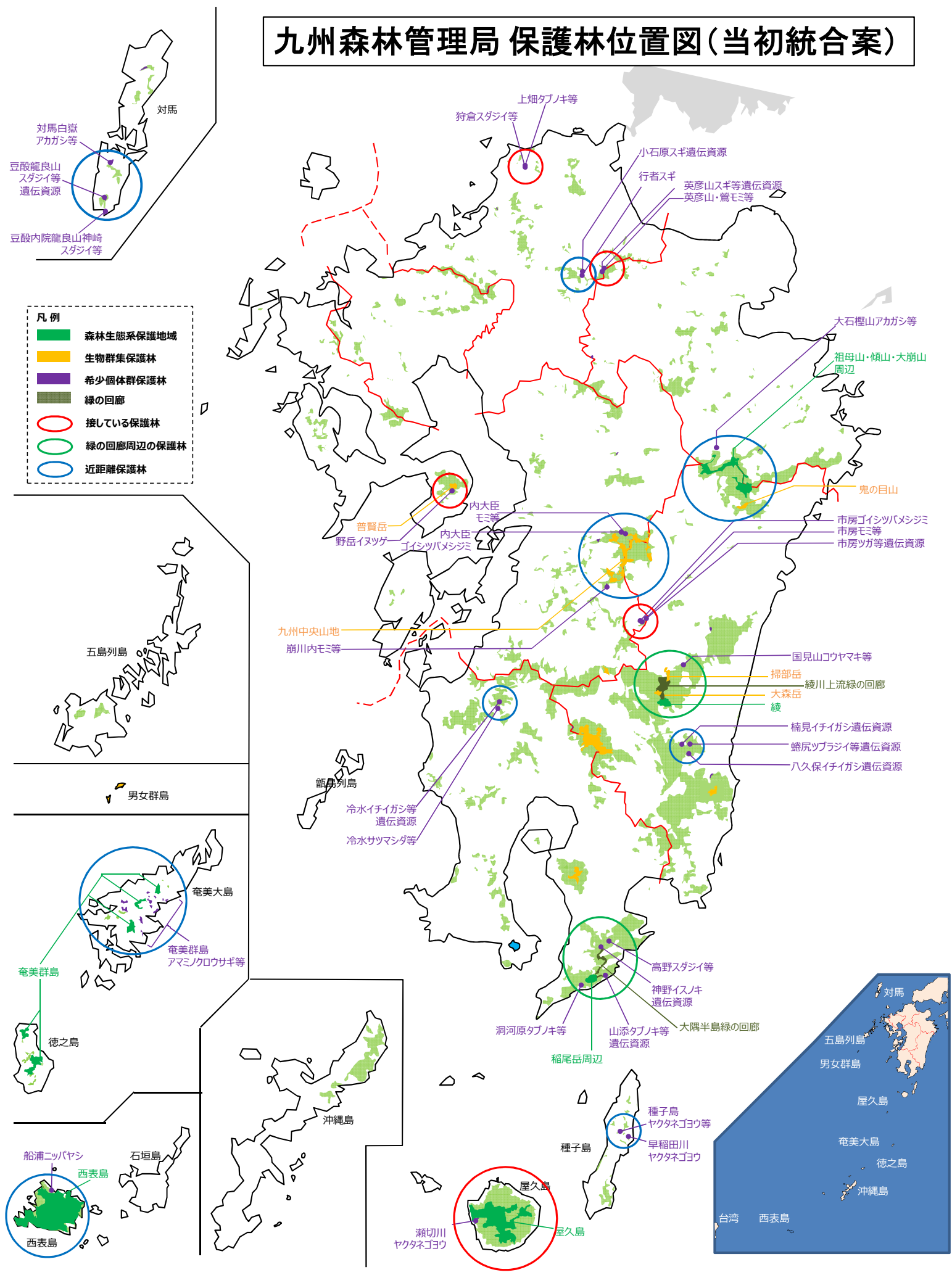
緑の回廊を介してつながっている保護林と、その周囲の保護林

■	綾	生態	} 19
	大森岳	群集	
	掃部岳	群集	
	国見山コヤマキ	希少	
■	稲尾岳	生態	} 27
	神野ツグハ	希少	
	山添ツグハ	希少	
	高野スタジイ	希少	
	洞河原ツグハ	希少	

隣接してはいないが、近距離にある、構成樹種が似ている保護林

■	小石原スギ	希少	} 34	■	蜷尻ツグハ	希少	} 54
	行者スギ	希少			楠見仔ツグハ	希少	
■	豆酸内院スタジイ	希少	} 37	■	八久保仔ツグハ	希少	} 59
	豆酸龍良スタジイ	希少			冷水仔ツグハ	希少	
	対馬白嶽ツグハ	希少			冷水ツグハ	希少	
■	中央山	群集	} 42	■	種子島ツグハ	希少	} 62
	崩川内モミ	希少			早稲田ツグハ	希少	
	内大モミ	希少		■	奄美	生態	} 65
	内大ゴイシ	希少			奄美ツグハ	希少	
■	祖母傾	生態	} 48	■	西表島	生態	} 68
	鬼目山	群集			船浦ツグハ	希少	
	大石ツグハ	希少					

# 九州森林管理局 保護林位置図(当初統合案)



- 凡例**
- 森林生態系保護地域
  - 生物群集保護林
  - 希少個体群保護林
  - 緑の回廊
  - 接している保護林
  - 緑の回廊周辺の保護林
  - 近距離保護林

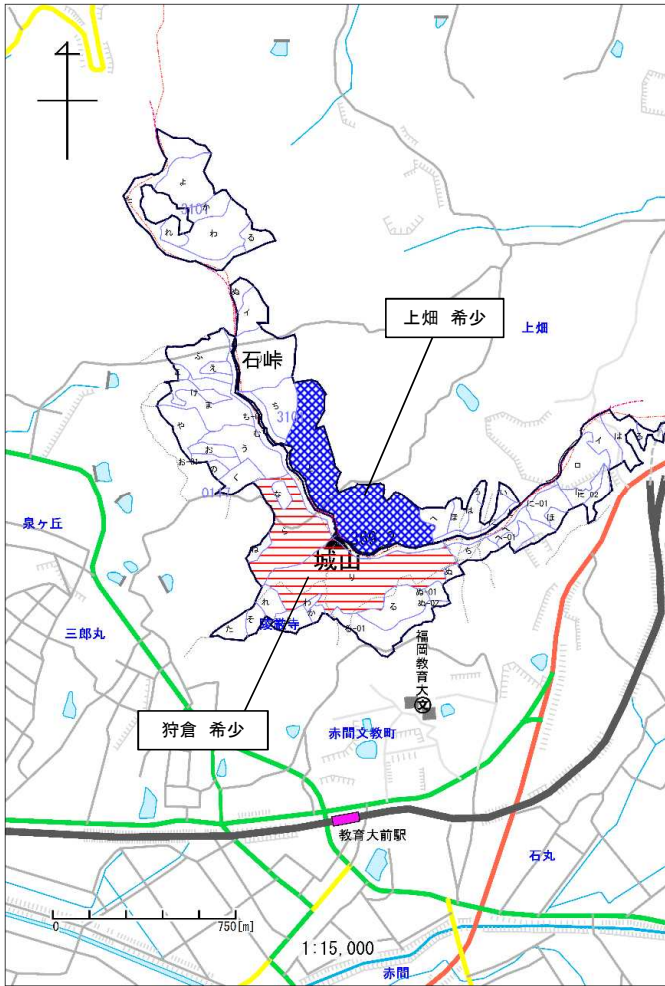


統合すべきか検討

上畑 希少  
狩倉 希少

上畑タブノキ等希少個体群保護林

狩倉スダジイ等希少個体群保護林



保護林遠景



保護林遠景



保護林近景



保護林近景

## 管理方針書 希少-9

名 称	じょうほた 上畑タブノキ等希少個体群保護林	管理(支)署	福岡森林管理署
面 積 (ha)	15.75	設定年月日	平成5年3月31日
		変更年月日	平成30年4月1日再編
位置及び区域 (森林生態系保護地域及び生物 群集保護林においては 保存地区、保全利用地区それぞ れの位置及び区域)	福岡県 遠賀郡 岡垣町 上畑山国有林 3101 と 林小班		
保護・管理を図るべき 森林生態系、個体群に 関する事項	シイ、タブノキ、その他広葉樹の天然林を保護し、学術研究等に資する。		
保護・管理及び利用に 関する事項	<p>上畑タブノキ等希少個体群保護林は、宗像市と岡垣町界で、城山(標高369m)が中心になった位置にあり、周囲は城山公園になっている。近くを国道3号線が走っている。林相は、シイ類、タブノキ、その他天然の広葉樹から成っている。城山公園の風致の保持助長に必要な地域となっている。</p> <p>標高:200m、傾斜:急、地質:安山岩類、土壌型:BC、林齢:120年生以上</p> <p>択 伐 極盛相にあるものは原則として自然の推移にゆだね、遷移の途中にあるものは現状の維持に必要な森林施業を行う。また、モニタリング、学術研究その他公益上必要な行為、非常災害のため応急措置として行う行為、軽微な施設の設置、その他法令等の規定に基づき行う。</p>		
モニタリングの実施間隔 及び留意事項	5年		
法令等に基づく指定 概況	保安林(水源涵養)		
その他留意事項	旧上畑風致 昭和53年4月1日 「保護林制度の改正について」(平成27年9月28日付け27林国経第49号)に伴い、平成30年4月1日再編(旧上畑植物群落保護林)		

## 管理方針書 希少-11

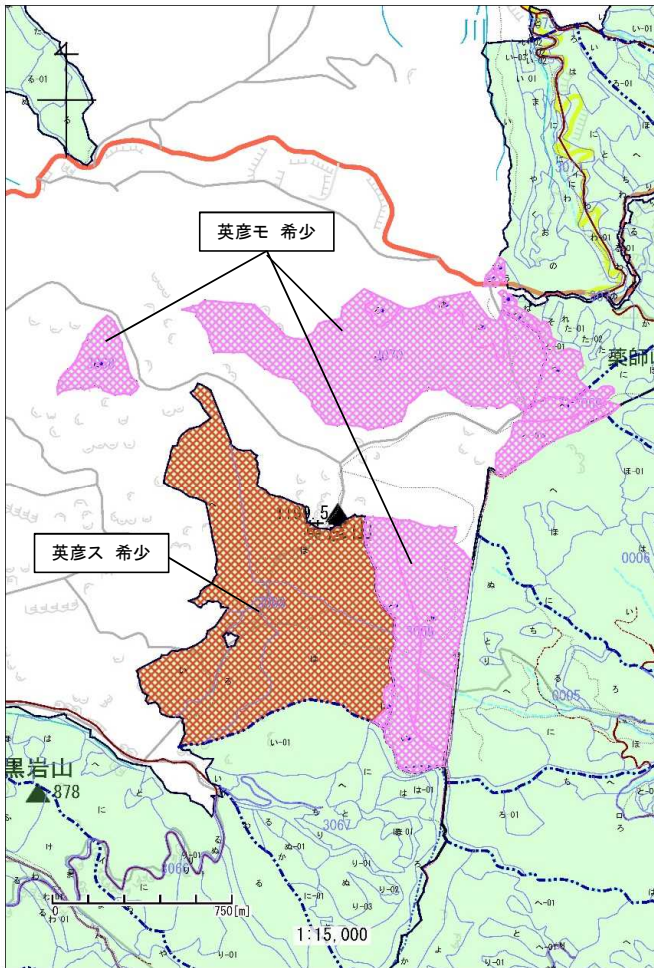
名 称	かりくら 狩倉スタジイ等希少個体群保護林	管理(支)署	福岡森林管理署
面 積 (ha)	21.40	設定年月日	平成5年3月31日
		変更年月日	平成30年4月1日再編
位置及び区域 <small>(森林生態系保護地域及び生物 群集保護林においては 保存地区、保全利用地区それぞ れの位置及び区域)</small>	福岡県 宗像市 狩倉国有林 117 里、ら 林小班		
保護・管理を図るべき 森林生態系、個体群に 関する事項	シイ類、タブノキ、その他広葉樹の天然林を保護し、学術研究等に資する。		
保護・管理及び利用に 関する事項	<p>狩倉スタジイ等希少個体群保護林は、宗像市と岡垣町界の宗像市側にあり、国道3号線に接し、JR鹿児島本線「教育大前駅」の近くに位置している。林相は、シイ類、タブノキ、ムクロジ、ヤブツバキ等その他の天然生広葉樹林となっている。戦国時代、宗像家の居城があったことから城山(じょうやま:標高369m)と呼ばれ、別名蔦ヶ嶽と言われている。城山公園として整備され登山や散策に利用されている。</p> <p>標高:400m、傾斜:急、地質:安山岩類、土壌型:BC、林齢:125年生以上</p> <p>択 伐 極盛相にあるものは原則として自然の推移にゆだね、遷移の途中にあるものは現状の維持に必要な森林施業を行う。また、モニタリング、学術研究その他公益上必要な行為、非常災害のため応急措置として行う行為、軽微な施設の設置、その他法令等の規定に基づき行う。</p>		
モニタリングの実施間隔 及び留意事項	5年		
法令等に基づく指定 概況	保安林(水源涵養)、都市計画区域(公園)		
その他留意事項	旧狩倉風致 昭和41年4月1日 「保護林制度の改正について」(平成27年9月28日付け27林国経第49号)に伴い、平成30年4月1日再編(旧狩倉植物群落保護林)		

統合するべきか検討

英彦ス 希少  
英彦モ 希少

英彦山スギ等遺伝資源希少個体群保護林

英彦山・鶯モミ等希少個体群保護林



保護林遠景



保護林遠景



鬼スギ



保護林近景



保護林近景

管理方針書 希少-1

(新)

名 称	ひこさん 英彦山スギ等遺伝資源希少個体群保護林	管理(支)署	福岡森林管理署
面 積 (ha)	81.26	設定年月日	昭和63年3月31日
		変更年月日	平成30年4月1日再編
位置及び区域 (森林生態系保護地域及び生物 群集保護林においては 保存地区、保全利用地区それぞ れの位置及び区域)	福岡県 田川郡 添田町 英彦山国有林 3068 い、ろ、は、ほ、へ 林小班		
保護・管理を図るべき 森林生態系、個体群に 関する事項	<p>本保護林は、北九州最高峰の英彦山(1,200m)の登山道周辺に位置している。当地域の歴史は古く、昔から神話と伝説・修験道の山として知られ、昭和25年に我が国最初の国定公園に指定された。英彦山は山の規模が大きく、雨量も県内では特に多い。英彦山は高住神社や県立青年の家などがほぼ標高800mにあり、この辺りを境にして植生が明瞭に変化する。</p> <p>800m以下の山麓部は暖温帯気候で、コジイ、アラカシ、ウラジロガシ、ヤブツバキ、アオキなどの照葉樹(常緑広葉樹)とヤマザクラ、ケヤキ、エノキ、イロハモミジなどの夏緑樹(落葉広葉樹)との混交林であるのに対し、800m以上の地域は冷温対気候でブナ、ミズナラ、コハウチワカエデなどの夏緑樹林となる。英彦山の魅力はこの夏緑樹林にあるとされ、ブナ林、ミズナラ林、シオジ林、天然ヒノキ林、岩角地植物群落、ツクシシャクナゲ群落などの変化に富む植物群落にある。</p> <p>また、英彦山のブナは葉が小さい太平洋型であり、主な分布域は1,000m以上にあつて、主稜線一帯ではミズナラを殆ど伴わない原生的なブナ林となっている。英彦山のブナ林の林床は中部山岳地帯、東北日本海側、山陰地方に生育するクマイザサ(シナノザサ)が生えており、冷涼な気候を好むササが南下して、英彦山まで分布を広げたと考えられている。</p> <p>林内には、「森の巨人たち100選」に選ばれた鬼スギ(樹齢推定1,200年・幹周12.40m・樹高38m)があり、大正13年12月に天然記念物に指定されている。こうした英彦山の雄大な自然を求め、訪れる観光客・登山者は年々増加の傾向にある。スギ、モミ、ツガ、カヤ、ケヤキ等が主な保存対象樹種である。</p> <p>標高:800m      傾斜:中～急      地質:安山岩      土壌型:BD(d)      林齢:135～205年生以上</p>		



<p>保護・管理及び利用に関する事項</p>	<p>保護・管理及び利用に関する基本的な事項については、保護林設定管理要領(平成27年9月28日付け 27林国経第49号)に定められた希少個体群保護林の取扱い方針に従う。また、平成22、30年度の保護林モニタリング調査を踏まえて、取り扱うこととする。</p> <p>本保護林については、保存対象種の種構成に変化はないが、シカ被害が認められ、前回調査からさらにシカ被害レベルが上がり、2プロットとも森林の内部構造が破壊されたレベル3の段階となっている。古い被害痕も新たな被害も確認でき、現在も被害は進行しており、危機的な状況にある。下層植生もシカの影響を強く受けて貧弱となり、林内見通しも良い。また、種構成に偏りが見られ、多様性が失われているとともに森林の更新にも影響があると考えられる。</p> <p>今後もモニタリング調査を継続し、シカ被害対策のため、植生保護柵の設置拡充、森林の植生構造の回復、林内の乾燥防止、併せて早急なシカ個体数管理の実施、保護対象種ブナ等の天然更新の促進など可能な対策から講じていくこととする。</p> <p>なお、今後、近傍にあり林相が類似する英彦山・鶯モミ等希少個体群保護林との統合を検討する。</p>
<p>モニタリングの実施間隔及び留意事項</p>	<p>5年</p>
<p>法令等に基づく指定概況</p>	<p>保安林(水源涵養・保健)、耶馬日田英彦山国定公園(特保)、鳥獣保護区(特別保護)</p>
<p>その他留意事項</p>	<p>旧名称「英彦山学参 面積81.26ha 昭和3.3.31」 「保護林制度の改正について」(平成27年9月28日付け27林国経第49号)に伴い、平成30年4月1日再編(旧英彦山林木遺伝資源保存林)</p>

## 管理方針書 希少-2

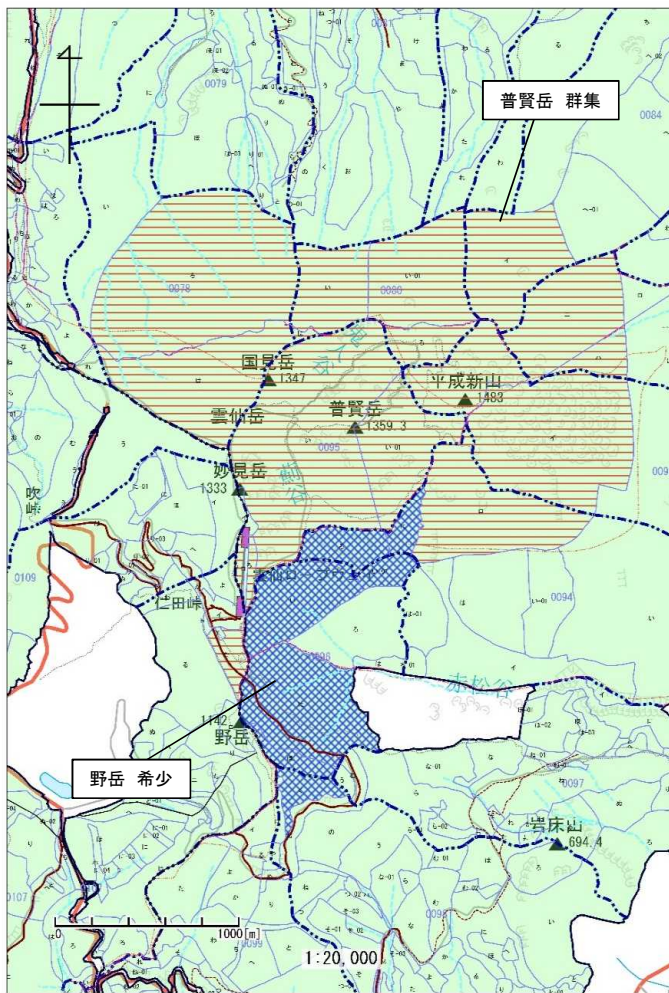
名 称	ひこさん・うぐいす 英彦山・鶯モミ等希少個体群保護林	管理(支)署	福岡森林管理署
面 積 (ha)	102.14	設定年月日	平成5年3月31日
		変更年月日	平成16年4月1日 国道敷に所管換の為0.29haの減 平成30年4月1日再編
位置及び区域 (森林生態系保護地域及び生物 群集保護林においては 保存地区、保全利用地区それ ぞれの位置及び区域)	福岡県 田川郡 添田町 英彦山国有林 3069 い、ろ、は、へ、へ1、3068 に、3070 全 林小班 " " 3071 つ、な、ら、む 林小班 " 鶯 国有林 3068 と 林小班		
保護・管理を図るべき 森林生態系、個体群に 関する事項	温帯植生(モミ)の代表的林相を保存し、学術研究等に資する。		
保護・管理及び利用に 関する事項	<p>英彦山・鶯モミ等希少個体群保護林は、英彦山(標高1,199m)を挟み両脇の山頂付近に位置しており、英彦山スカイラインや修験道の霊場として有名な英彦山神社にも接している。林内には、大正13年12月9日「天然記念物」に指定され、「森の巨人たち100選」にも選ばれた『鬼スギ』がある。また、近くには、旧亀石坊庭園や秦幣殿等がある。林相は、モミの大木が多く、スギ、ブナ、ケヤキ等も混生し、北九州地方における天然林の中ではほとんど比類できないほど優良な林相を呈している。近くに大都市を控えており、英彦山神社への参拝者や周辺での散策と登山者等の多くの利用者がある。</p> <p>標高: 1,000m 傾斜: 中～急 地質: 安山岩 土壌型: BD(d) 林齢: 80～280年生以上</p> <p>禁 伐 極盛相にあるものは原則として自然の推移にゆだね、遷移の途中にあるものは現状の維持に必要な森林施業を行う。また、モニタリング、学術研究その他公益上必要な行為、非常災害のため応急措置として行う行為、軽微な施設の設置、その他法令等の規定に基づき行う。</p>		
モニタリングの実施間隔 及び留意事項	5年		
法令等に基づく指定 概況	保安林(水源涵養・保健)、耶馬日田英彦山国定公園(特保・特1・特2)、鳥獣保護区(特別保護・普通)		
その他留意事項	旧英彦山学参 平成3年3月31日 81.26(0.03)haは林木遺伝資源保存林へ 平成3年3月31日 102.43haは植物群落保存林へ 「保護林制度の改正について」(平成27年9月28日付け27林国経第49号)に伴い、平成30年4月1日再編(旧英彦山・鶯植物群落保護林)		

統合すべきか検討

普賢岳 群集  
野岳 希少

普賢岳生物群集保護林

野岳イヌツゲ希少個体群保護林



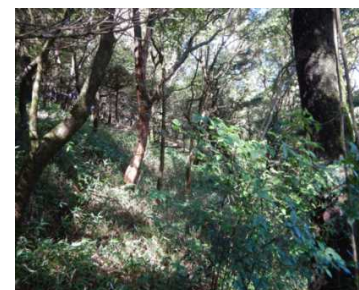
保護林遠景



保護林遠景



保護林近景



保護林近景



イヌツゲの巨木

## 管理方針書 生物 - 1

名 称	ふげんだけ 普賢岳生物群集保護林	管理(支)署	長崎森林管理署
面 積 (ha)	443.41	設定年月日	平成5年3月31日
		変更年月日	平成30年4月1日再編
位置及び区域 (森林生態系保護地域及び生物群集保護林においては保存地区、保全利用地区それぞれの位置及び区域)	長崎県 雲仙市 小浜町 三会温泉岳国有林 78 ろ、は、80 全、84 ち、92 る、わ、93 お、く 林小班 94 な、95 い、い1、ろ、108 た、イ 林小班		
保護・管理を図るべき森林生態系、個体群に関する事項	イタヤカエデ、ノリウツギ、ナナカマド、ミヤマキリシマ等の広葉樹林を保護し、学術研究等に資する。		
保護・管理及び利用に関する事項	<p>普賢岳生物群集保護林は、島原半島のほぼ中央部、雲仙普賢岳(標高1,359m)周辺で、標高800m～1,300mの急傾斜地に位置している。普賢岳は、平成3年6月に噴煙を上げ、土石流や火砕流により山頂付近の山容、地形が大きく変化した。このため、周囲の植生も大きく変わり、林相も高木、亜高木が大きく減少している。主に、イタヤカエデ、ノリウツギ、ナナカマド、ミヤマキリシマ等の広葉樹の群生地帯が多くあり、秋には美しく紅葉していたが、低木のコツクバネウツギ、ニシキギ、ヒカゲツツジ、ヤマグルマ等が目立つようになっている。普賢岳への観光客も多く、特に、国道57号線沿いからのロープウェイによる普賢岳見物は観光のメッカとなっている。</p> <p>標高:800m、 傾斜:急、 地質:安山岩類、 土壌型:BD(d)・B/D(m)</p> <p>禁 伐 極盛相にあるものは原則として自然の推移にゆだね、遷移の途中にあるものは現状の維持に必要な森林施業を行う。また、モニタリング、学術研究その他公益上必要な行為、非常災害のため応急措置として行う行為、軽微な施設の設置、その他法令等の規定に基づき行う。</p>		
モニタリングの実施間隔及び留意事項	5年		
法令等に基づく指定概況	保安林(水源涵養・土砂流出防備・保健)、雲仙天草国立公園(特保)、史跡名勝天然記念物、鳥獣保護区(特別保護・普通)		
その他留意事項	旧普賢岳学参 昭和41年4月1日 「保護林制度の改正について」(平成27年9月28日付け27林国経第49号)に伴い、平成30年4月1日再編(旧普賢岳植物群落保護林)		

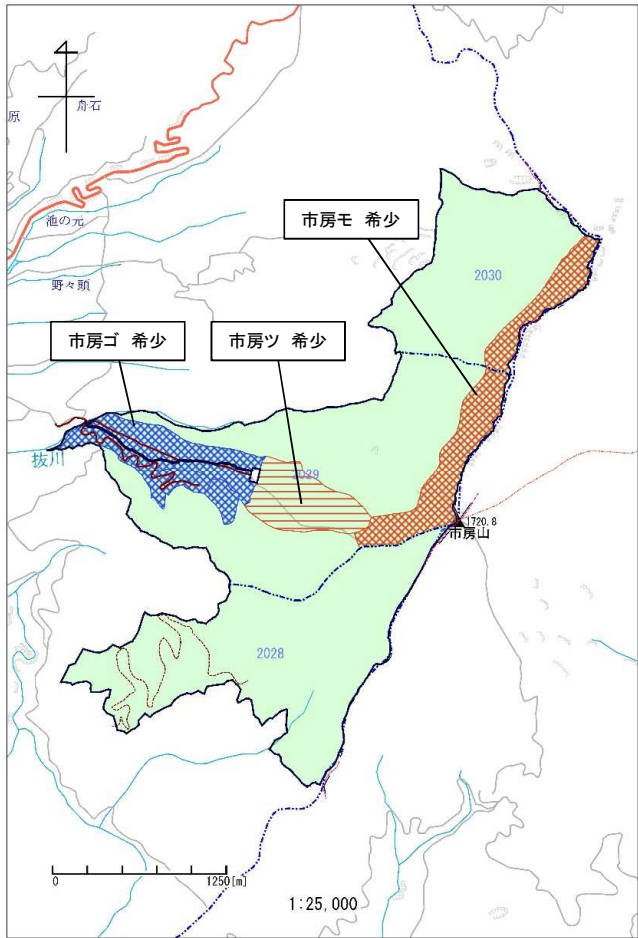
## 管理方針書 希少-24

名 称	<small>のだけ</small> 野岳イヌツゲ希少個体群保護林	管理(支)署	長崎森林管理署
面 積 (ha)	80.31	設定年月日	平成5年3月31日
		変更年月日	平成30年4月1日再編
位置及び区域 <small>(森林生態系保護地域及び生物 群集保護林においては 保存地区、保全利用地区それ ぞれの位置及び区域)</small>	長崎県 南島原市 深江町 安中温泉岳国有林 94 ら、ら1、96 い、い1、に、ほ、98 く 林小班		
保護・管理を図るべき 森林生態系、個体群に 関する事項	イヌツゲ群落を保存し、学術研究等に資する。		
保護・管理及び利用に 関する事項	<p>野岳イヌツゲ希少個体群保護林は、島原半島のほぼ中央で、国道57号線から分岐し南島原市深江町から島原市へ向かう県道に沿う標高700m～1,100mの急傾斜地に位置している。野岳の山頂付近の林相は、イヌツゲが群集し、樹高6m、幹周20cmに達する巨木の群落が見られる。また、林内にはモミ、ニシキウツギ、ミヤマキリシマ、シロドウダン、カナクギノキ等の群落も点在している。</p> <p>標高:800m、 傾斜:急、 地質:安山岩類、 土壌型:BD・D/D(m)・BD(d)、 林齢:70～150年生以上</p> <p>禁 伐 極盛相にあるものは原則として自然の推移にゆだね、遷移の途中にあるものは現状の維持に必要な森林施業を行う。また、モニタリング、学術研究その他公益上必要な行為、非常災害のため応急措置として行う行為、軽微な施設の設置、その他法令等の規定に基づき行う。</p>		
モニタリングの実施間隔 及び留意事項	5年		
法令等に基づく指定 概況	保安林(水源涵養・保健)、雲仙天草国立公園(特保・特2)、史跡名勝天然記念物、鳥獣保護区(特別保護・普通)		
その他留意事項	旧野岳学参 昭和49年4月1日 「保護林制度の改正について」(平成27年9月28日付け27林国経第49号)に伴い、平成30年4月1日再編(旧野岳植物群落保護林)		

統合すべきか検討

市房モ 希少  
市房ツ 希少  
市房ゴ 希少

市房ゴイシツバメシジミ希少個体群保護林



保護林遠景



シシランの着生状況



保護林近景



保護林近景



ゴイシツバメシジミ

## 市房モミ等希少個体群保護林



保護林近景



保護林近景



ヒメシヤラの剥皮

## 市房ツガ等遺伝資源希少個体群保護林



保護林遠景



市房神社参道の市房スギ



保護林近景

## 管理方針書 希少-35

名 称	いちふさ 市房モミ等希少個体群保護林	管理(支)署	熊本南部森林管理署
面 積 (ha)	55.80	設定年月日	平成5年3月31日
		変更年月日	平成30年4月1日再編
位置及び区域 (森林生態系保護地域及び生物 群集保護林においては 保存地区、保全利用地区それぞ れの位置及び区域)	熊本県 球磨郡 水上村 市房国有林 2029 か、2030 ろ 林小班		
保護・管理を図るべき 森林生態系、個体群に 関する事項	市房の中核となる山頂周辺の原生林を保護し、風致の維持を図り、併せて森林施業、管理技術の発展、学術研究等に資する。		
保護・管理及び利用に 関する事項	<p>市房モミ等希少個体群保護林は、熊本県水上村と宮崎県西米良村界にある市房山(標高1,721m)を頂点とする位置にあり、標高 1,000m～1,100mである。林内には市房神社があり、市房神社は俗に「お岳さん」と呼ばれ、創建は文同2年(802年)と伝えられ、相良家代々の祈願所となっている。また、九州中央山地国定公園に指定されている。林相は、モミ、ツガ、カエデ、ミズナラ等が原生林の状態に残っている。</p> <p>標高:1,000m、 傾斜:急、 地質:中生層頁岩、 土壌型:BC、 林齢:135～175年生以上</p> <p>禁 伐 極盛相にあるものは原則として自然の推移にゆだね、遷移の途中にあるものは現状の維持に必要な森林施業を行う。また、モニタリング、学術研究その他公益上必要な行為、非常災害のため応急措置として行う行為、軽微な施設の設置、その他法令等の規定に基づき行う。</p>		
モニタリングの実施間隔 及び留意事項	5年		
法令等に基づく指定 概況	保安林(水源涵養・保健)、九州中央山地国定公園(特1)、鳥獣保護区(特別保護)		
その他留意事項	旧市房風致 昭和52年4月1日 「保護林制度の改正について」(平成27年9月28日付け27林国経第49号)に伴い、平成30年4月1日再編(旧市房植物群落保護林)		



## 管理方針書 希少-36

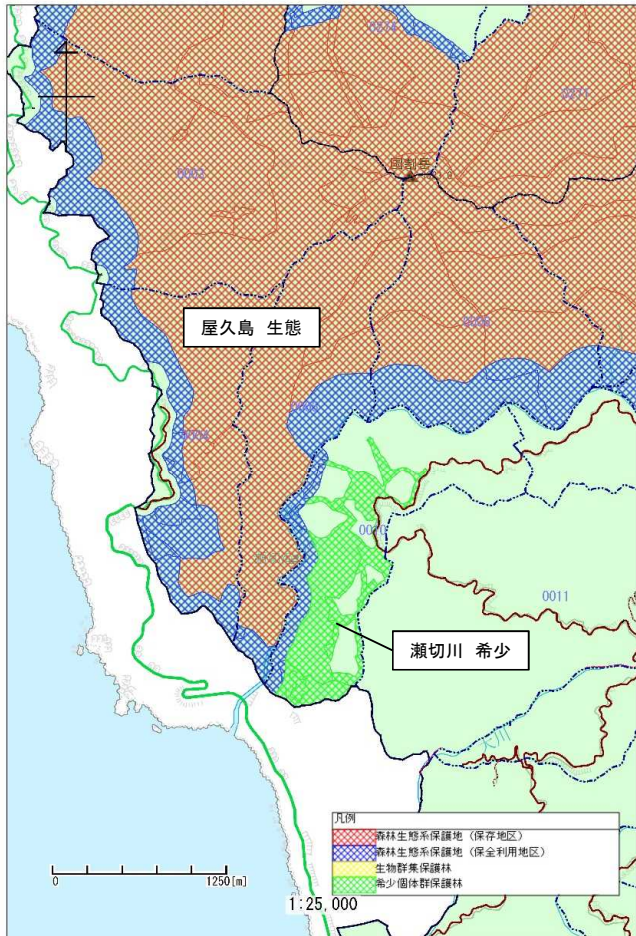
名 称	いちふさ 市房ツガ等遺伝資源希少個体群保護林	管理(支)署	熊本南部森林管理署
面 積 (ha)	31.20	設定年月日	平成5年3月31日
		変更年月日	平成30年4月1日再編
位置及び区域 (森林生態系保護地域及び生物 群集保護林においては 保存地区、保全利用地区それぞ れの位置及び区域)	熊本県 球磨郡 水上村 市房国有林 2029 と 林小班		
保護・管理を図るべき 森林生態系、個体群に 関する事項	ツガ、ヒメコマツ、サワグルミ、ケヤキの保存		
保護・管理及び利用に 関する事項	<p>市房ツガ遺伝資源希少個体群保護林は、球磨郡水上村の市房山(標高1,722m)の西側中腹に位置し、下方には市房ダムがある。林相は、ツガ、ヒメコマツ、ケヤキ、シオジ等の原生林に覆われ、天然記念物に相当する程の大径木や動植物等の宝庫である。途中の市房神社参道には、市房スギ(樹齢800年生以上)が43本生立している。市房山は、昔から地元の人々には「御嶽さん」と呼ばれている。また、中腹の市房神社(海拔800m)は、縁結びの神様として旧暦3月16日には球磨一円からの大勢の参拝者で賑わっている。</p> <p>標高:800m、傾斜:急、地質:中生層頁岩、土壌型:BD(d)、林齢:160年生以上</p> <p>禁 伐 被害木の除去、災害防止及び学術研究のための伐採はできるものとする。ただし、法的規制等に抵触しない範囲内とする。</p>		
モニタリングの実施間隔 及び留意事項	5年		
法令等に基づく指定 概況	保安林(水源涵養・保健)、九州中央山地国定公園(特2)、鳥獣保護区(普通)		
その他留意事項	旧名称「御前岳学参」面積24.14ha 設定 昭和 47.3.31 「保護林制度の改正について」(平成27年9月28日付け27林国経第49号)に伴い、平成30年4月1日再編(旧市房林木遺伝資源保存林)		

## 管理方針書 希少-37

名 称	いちふさ 市房ゴイツバメシジミ希少個体群保護林	管理(支)署	熊本南部森林管理署
面 積 (ha)	45.27	設定年月日	平成20年3月25日
		変更年月日	平成30年4月1日再編
位置及び区域 (森林生態系保護地域及び生物 群集保護林においては 保存地区、保全利用地区それ ぞれの位置及び区域)	熊本県 球磨郡 水上村 市房国有林 2029 ほ、へ、と1、ち、ら 林小班		
保護・管理を図るべき 森林生態系、個体群に 関する事項	ゴイツバメシジミ「国の天然記念物(蝶)」、「国内希少野生動植物種」の繁殖地及び生息地の保護を図り、併せて学術研究に資する。		
保護・管理及び利用に 関する事項	<p>市房ゴイツバメシジミ希少個体群保護林は、市房山(標高1,721m)の西側斜面、市房神社付近に位置している。林相は、市房神社の参道を中心として、ウラジログシ、イチイガシ、アカガシ等の照葉樹の大径木を上層木とする原生的な森林が発達している。また、標高700~800mに位置するケヤキ人工林は、草本層や低木層が発達しつつあり、樹冠同士の間隙に隙間が生じるような成熟段階の林分と成っている。標高800m以上の位置するスギ・ヒノキ人工林については、植栽された木が林冠を強く閉鎖し、下層植生が目立って乏しい若齢段階の林分と成っている。</p> <p>標高500~900m、 傾斜:緩~急、 地質:花崗岩、 林齢:48~175年生以上(平成28年)</p> <p>繁殖又は生息する動物の生態特性を踏まえた保護及び管理を行うこととし、このために必要な森林施業は行うこととする。また、モニタリング、学術研究その他公益上必要な行為、非常災害のため応急措置として行う行為、軽微な施設の設置、その他法令等の規定に基づき行う。</p>		
モニタリングの実施間隔 及び留意事項	5年		
法令等に基づく指定 概況	保安林(水源涵養・保健)、九州中央山地国定公園(特2・特3)、砂防指定地、鳥獣保護区(普通)		
その他留意事項	「保護林制度の改正について」(平成27年9月28日付け27林国経第49号)に伴い、平成30年4月1日再編(旧市房特定動物生息地保護林)		

# 統合すべきか検討

屋久島 生態  
瀬切川 希少



## 屋久島森林生態系保護地域



保護林遠景（西部の垂直分布）

## 瀬切川ヤクタネゴヨウ希少個体群保護林



保護林遠景



保護林近景（縄文杉）

著名木及び周辺植生の保護



保護林近景



ヤクタネゴヨウの  
芽生え

## 管理方針書 生態 - 5

名 称	やくしま 屋久島森林生態系保護地域	管理(支)署	屋久島森林管理署
面 積 (ha)	15, 185. 44 保存地区 : 9600. 55 保全利用地区 : 5584. 89	設定年月日	平成4年3月30日
		変更年月日	平成30年4月1日再編
位置及び区域 (森林生態系保護地域及び生物 群集保護林においては 保存地区、保全利用地区それ ぞれの位置及び区域)	鹿児島県 熊毛郡 屋久島町 愛子岳国有林 204 ไร่ 林小班外 平瀬 国有林 1 ไร่ 林小班外		
保護・管理を図るべき 森林生態系、個体群に 関する事項	原生的な天然林を保存することにより、自然環境の維持、動植物の保護、遺伝資源の保存、学術研究などに役立てるとともに、これらの森林を後世に引き継ぐことにする。		
保護・管理及び利用に 関する事項	<p>屋久島森林生態系保護地域の屋久島は、九州の最南端、佐多岬の南方65Km、鹿児島より南へ約130Kmの海上に位置している。南海の洋上に屹立する周囲約100Kmのほぼ円形に近い形をした山岳島で、最高峰宮之浦岳(標高1,936m)をはじめ、標高1,500m以上の高峰が連なった急峻な地形を呈し、海岸近くまで尾根を形成している。地質は、四万十層群に属し、主として四万十層群と、これを貫く新第三紀花崗岩とからなっている。林相は、暖温帯と冷温帯からなり、山頂部はヤクシマダケ、ヤクシマシャクナゲの群集の低木林下部の海岸部低地林にはアコウ、ガジュマル等の群集がある。中央地帯である奥岳地域の標高は600~1,800m付近にはヤクスギが分布し、中腹部ではイスノキ、ウラジロガシ、アカガシ、ヤマグルマ等の常緑広葉樹と混生し、尾根部ではモミ、ツガ等が混生し針葉樹林を形成している。</p> <p>保存地区 (9,600. 55ha)・・・禁 伐 原則として人手を加えずに、自然の推移にゆだねる。</p> <p>保全利用地区(5,584. 89ha)・・・木材生産を目的とする森林施業は行わない。ただし、人工林については複層林施業等を行う。 将来的には天然林への移行を図る。</p>		
モニタリングの実施間隔 及び留意事項	5年		
法令等に基づく指定 概況	保安林見込地(水源涵養)、保安林(水源涵養・土砂流出防備・保健)、屋久島国立公園(特保、特1・特2・特3)、屋久島原生自然環境保全地域、史跡名勝天然記念物、鳥獣保護区(特別保護・普通)、特別母樹林		
その他留意事項	旧名称・・・第一、第二学参、国割学参、花山学参、瀬切学参  屋久島森林生態系保護地域計画(平成4年3月)  「保護林制度の改正について」(平成27年9月28日付け27林国経第49号)に伴い平成30年4月1日再編(旧屋久島森林生態系保護地域)	特 徴	植物・・・世界的に貴重な高齢ヤクスギ群とヤクシマチシダ等、多数の固有種を含むシダ類や豊富な蘚苔類に特徴する植生である。 動物・・・ヤクシカ、ヤクザル、ヤクコマドリ、ヤクシマトゲトンボ、ヤクシマミドリシジミ等屋久島固有のものが多数生息している。

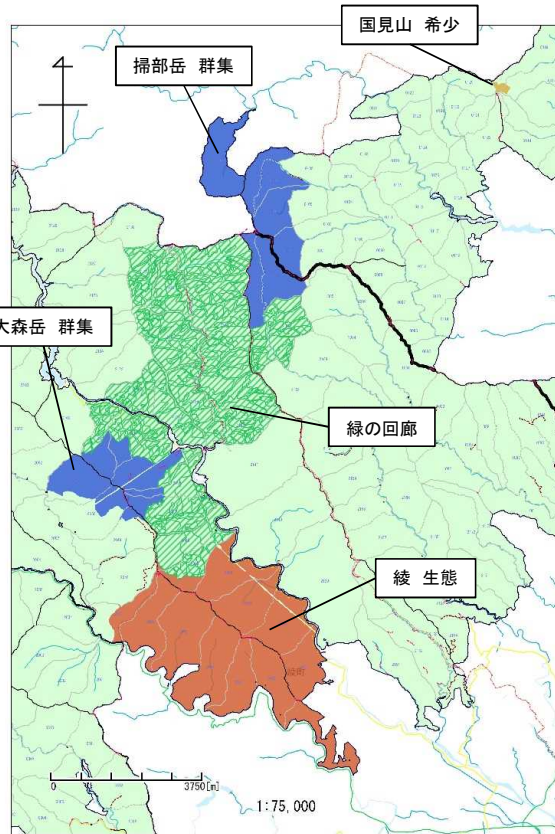
## 管理方針書 希少 - 74

名 称	せぎれがわ 瀬切川ヤクタネゴヨウ希少個体群保護林	管理(支)署	屋久島森林管理署
面 積 (ha)	61.54	設定年月日	平成26年3月5日
		変更年月日	平成30年4月1日再編
位置及び区域 (森林生態系保護地域及び生物 群集保護林においては 保存地区、保全利用地区それぞ れの位置及び区域)	鹿児島県 屋久島町 平瀬国有林 10 に、と、ほ、は、ろ、に2 林小班		
保護・管理を図るべき 森林生態系、個体群に 関する事項	ヤクタネゴヨウは、屋久島と種子島のみ自生しており、絶滅危惧ⅠB類に指定されている。ヤクタネゴヨウの保護林については「種子島希少個体群保護林」、「早稲田川ヤクタネゴヨウ希少個体群保護林」の2箇所を設定しているが、当保護林は他のヤクタネゴヨウ保護林より規模が大きな個体群であることから、自生するヤクタネゴヨウを含む針広混交林を森林生態系として保護することを目的とする。		
保護・管理及び利用に 関する事項	<p>瀬切川ヤクタネゴヨウ希少個体群保護林は、屋久島西部に位置し、屋久島森林生態系保護地域に隣接する箇所である。林況については、ヤクタネゴヨウのほかシイ・カンの二次林を主体とする森林である。なお、保護林区域から除外されているが、スギ・ヒノキの人工林が介在している。</p> <p>保護林区域及び周辺には、大径木も含む536本のヤクタネゴヨウが自生しており非常に重要な植物群落である。</p> <p>標高:140~460m、傾斜:急、傾斜方位:南~南西、地質:花崗岩、土壌型:弱乾性褐色森林土(BC)、林齢:36~178年生</p> <p>極盛相にあるものは、原則として人手を加えずに自然の推移に委ねた保護及び管理を行う。</p> <p>なお、保護林区域から除外されている介在する人工林については、試験研究等により針広混交林を目指した施業を行うこととする。</p> <p>また、モニタリング調査、学術研究その他公益上必要な行為、非常災害のため応急措置として行う行為、標識類の設置等、軽微な施設の設置、その他法令等の規定に基づき行うべき行為はできるものとする。</p>		
モニタリングの実施間隔 及び留意事項	5年		
法令等に基づく指定 概況	保安林(水源涵養)		
その他留意事項	「保護林制度の改正について」(平成27年9月28日付け27林国経第49号)に伴い、平成30年4月1日再編(旧瀬切川ヤクタネゴヨウ植物群落保護林)		

## 統合すべきか検討

綾  
大森岳  
掃部岳  
国見山

生態  
群集  
群集  
希少



## 綾森林生態系保護地域



保護林遠景



保護林近景



スダジイの板根

## 大森岳生物群集保護林



保護林遠景



保護林近景



## 掃部岳生物群集保護林



保護林遠景



保護林近景



## 国見山コウヤマキ等希少個体群保護林



保護林近景



保護林近景

管理方針書 生態-2

(新)

名 称	あや 綾森林生態系保護地域	管理(支)署	宮崎森林管理署
面 積 (ha)	1,485.30 保存地区 : 800.45 保全利用地区 : 684.85	設定年月日	平成20年3月25日
		変更年月日	平成30年4月1日再編
位置及び区域 (森林生態系保護地域及び生物 群集保護林においては 保存地区、保全利用地区それぞ れの位置及び区域)	宮崎県 東諸県郡 綾町 中尾、竹野前坂国有林 2042 ほ2 林小班外 宮崎県 小林市 柚園国有林 2047 に 林小班外 ※別添一覧表のとおり		
保護・管理を図るべき 森林生態系、個体群に 関する事項	<p>西南日本の山地帯の代表的自然植生である照葉樹林は潜在的分布域は広く、古くから耕作地や薪炭林等として利用される地域も多いが、現在は全国において小面積なものが点在するのが殆どであり、原生状態で残るものはわずか1.6%にすぎないとも言われる。九州森林管理局管内国有林においては、比較的規模の大きな照葉樹林が何カ所か残されており、このうち宮崎県小林市及び東諸県郡綾町に存する照葉樹林一帯が綾森林生態系保護地域として保護林に設定されている。</p> <p>本保護林は、綾北川、綾南川の上流に位置し、ほぼ全域が起伏量600m以上の大起伏山地で、標高の最も高い所で867m、低い所で100mであり、比高差は概ね700mである。本保護林は、比較的規模が大きく、また植生の垂直分布の変化が見られるなど極めて貴重な照葉樹林である。斜面下部にはイチイガシ、ツブラジイ、ハナガガシ、タブノキ等が優占し、中腹部からはイスノキ、ウラジログシ、アカガシなどが優占し、照葉樹林構成種数は地域の気温との相関が示唆されており、本地域の照葉樹林構成種の高木種数は多く、25種～30種程度との報告もある。</p> <p>また、林内の植物種は着生植物、菌従属栄養植物、寄生植物を含め約850種が生育するとされる。さらに、本保護林の希少植物種は、環境省レッドリスト(2017)掲載種で53種、宮崎県レッドリスト(2015)掲載種で82種が確認されており、豊かな照葉樹林が残された証とされる。</p> <p>本地域における最近の生物相の基礎的調査によれば、動物相については、哺乳類で13科23種(うち環境省レッドリスト、宮崎県レッドリスト掲載種が10種)、鳥類では32科66種(うち前記レッドリスト掲載種が24種)が確認されているほか、両生・爬虫類、昆虫類、陸産貝類等においても希少種を含めた多様な生物が多数確認されている。平成28年度には綾町による動植物調査が行われ、新たに希少動植物が確認された。</p> <p>このように、綾の照葉樹林は日本を代表する照葉樹林地域であり、多様な森林生態系を有する地域として、自然環境の維持、動植物の保護、遺伝資源の保存、学術研究などに活かし、良好な形で後世に引き継いでいくことが重要である。</p> <p>さらに、本保護林を含む綾の照葉樹林周辺の掃部岳生物群集保護林、大森岳生物群集保護林を核に連続性を確保するため、延長5km、面積2,270haの「綾川上流緑の回廊」が設定されている。</p>		



<p>保護・管理及び利用に関する事項</p>	<p>保護・管理及び利用については、基本的には保護林設定管理要領(平成27年9月28日付け27林国経第49号)に定められた森林生態系保護地域の取扱方針並びに「綾森林生態系保護地域計画」に従う。また、平成23、28年度の保護林モニタリング調査の結果を踏まえて取り扱うこととする。</p> <p>本保護林を含めた周辺の国有林と一部民有林を含めた地域(周辺エリア)は、平成24年7月、核心地域682ha、緩衝地域8,982ha、移行地域4,916haからなる総面積14,580haの「綾ユネスコエコパーク」に登録されている。</p> <p>また、一部地域(約10,000ha)については、九州森林管理局及び綾町、宮崎県、(公財)日本自然保護協会、(一社)てるはの森の会の5者からなる「綾川流域照葉樹林帯保護・復元計画(綾の照葉樹林プロジェクト=通称、綾プロ)」の推進協定が結ばれている。綾プロエリアの森林は取扱別に4グループ、18エリアにゾーニングされ、林野庁等関係行政機関、地域関係者等が協議のもとで策定している同地域の保全管理計画がある。</p> <p>この中では、ニホンジカによる食害の影響、人工林の自然林への復元、森林環境学習への利用、持続的森林経営を行うこと、地球温暖化防止、生物多様性保全、人と自然が共生する持続可能な地域作りに貢献することなど様々な課題や目的が設定され、今後100年をかける壮大な理念を実現するため、各行動計画が実践されており、全国的にも先進的取組として注目されている。</p> <p>さらに、綾町では、既存の各取組と連携させ、地域住民自ら取り組んでいくための指針となる綾町生物多様性地域戦略が策定されている。</p> <p>本保護林は、基本的には林野庁で定めた保護林設定管理要領等により取り扱うものとするが、上記記載のように、既にユネスコエコパークの枠組み、綾プロの対象地域に係る協定書や行動計画等が策定されており、これらの既往の取組との整合性を保ちながら進めていくことが肝要である。今後の森林のモニタリング調査結果なども参酌し、保護林管理委員会の意見を聞きながら、必要に応じて修正を加えるなど保護・管理及び利用について柔軟に対応していくこととする。</p>
<p>モニタリングの実施間隔及び留意事項</p>	<p>5年</p>
<p>法令等に基づく指定概況</p>	<p>保安林(水源涵養・土砂流出防備・保健)、九州中央山地国定公園(特2・特3)</p>
<p>その他留意事項</p>	<p>「綾川上流緑の回廊」の設定方針(平成18年3月)  綾森林生態系保護地域計画(平成20年3月)  「保護林制度の改正について」(平成27年9月28日付け27林国経第49号)に伴い平成30年4月1日再編(「てるは郷土の森(317.83ha)」を統合し、地帯区分を見直し)</p>

## 管理方針書 生物 - 7

名 称	おおも <sup>り</sup> だけ 大森岳生物群集保護林	管理(支)署	宮崎森林管理署
面 積 (ha)	373.44	設定年月日	平成18年3月23日
		変更年月日	平成30年4月1日再編
位置及び区域 (森林生態系保護地域及び生物群集保護林においては保存地区、保全利用地区それぞれの位置及び区域)	宮崎県 東諸県郡 綾町 大字 北俣 中尾国有林 2097 と 林小班外 宮崎県 小林市 須木 大字 下田 袖園国有林 2049 と 林小班外		
保護・管理を図るべき森林生態系、個体群に関する事項	大森岳周辺の森林は、日本の暖温帯の常緑広葉樹林であるヤブツバキクラスを大面積に残す地域で、降水量、気温との関係で空中及び土壌中の湿度が高く、その結果他の森林では見られないほどフウラン、ナゴランなどの樹幹上の多様な着生植物や林床植生が生育するなど、暖温帯モンスーンの照葉樹林として西日本の自然を代表する極めて重要な自然生態系を呈している。これらの学術的価値の高い照葉樹林群落の一体的な維持を図り、併せて、地域の森林施業、森林管理技術の発展、学術研究等に資する。		
保護・管理及び利用に関する事項	<p>大森岳生物群集保護林は、宮崎県綾町と小林市が接する市町界に存在し、九州中央山地最南部の大森岳の山頂周辺一帯に位置している。大森岳は、綾北川と綾南川に挟まれる格好で北西から南東方向に伸びる山塊である。林相は、海拔650m以上の稜線にかけてアカガシ、ウラジロガシ、イスノキ、スダジイなどの照葉樹が優占する中にツガやモミなどの常緑針葉樹が混生するコガクウツギーモミ群集が成立し、皆伐650mから450m付近にかけてはイスノキ、アカガシ、ウラジロガシ、タブノキなどが優占するイスノキーウラジロガシ群集が見られる。皆伐450mmから谷部水面近くにかけての部分にはイチイガシ、タブノキ、ルリミノキなどが優占するルリミノキーイチイガシ群集が見られるが、この地域の急崖地のような土壌の浅い部分には皆伐上部のイスノキーウラジロガシ群集やコガクウツギーモミ群集が成立している。ルリミノキーイチイガシ群集の出現種数は、45～90種と種の多様性に富んでいる。この群集は、シイ林域とカシ林域との移行域にあってシイ林と比較して空中湿度が高く、シイ林域やカシ林域の林分と比較して林内樹幹上の着生植物が大変豊かである。着生植物は、フウラン、ナゴラン、キバナセッコクなどのラン科植物で、その他ガンセキラン、ホシケイラン、キエビネ、エビネ、ナツエビネ、カンラン、ナギランなどが分布している。</p> <p>標高:200～1,109m、傾斜:急、地質:中生層頁岩、土壌型:BC、林齢:60～170年生、気候帯:太平洋岸気候区－九州山地型</p> <p>原則として人手を加えず自然の推移に委ねる。 なお、モニタリング、学術研究その他公益上必要な行為、非常災害のため応急措置として行う行為、軽微な施設の設置、その他法令等の規定に基づく行為はできるものとする。</p>		
モニタリングの実施間隔及び留意事項	5年		
法令等に基づく指定概況	保安林(水源涵養・保健)、九州中央山地国定公園(特2・特3)		
その他留意事項	「綾川上流緑の回廊」の設定方針(平成18年3月) 「保護林制度の改正について」(平成27年9月28日付け27林国経第49号)に伴い、平成30年4月1日再編(旧大森岳植物群落保護林)		

管理方針書 生物-6

(新)

名 称	かもんだけ 掃部岳生物群集保護林	管理(支)署	西都児湯森林管理署・宮崎森林管理署
面 積 (ha)	保存地区 626.83 (西都児湯署 443.91 宮崎署 182.92)	設定年月日	平成18年3月23日
		変更年月日	平成30年4月1日再編
位置及び区域 (森林生態系保護地域及び生物群集保護林においては保存地区、保全利用地区それぞれの位置及び区域)	宮崎県 東諸県郡 国富町 大字 深年 茶臼嶽国有林 2163 は 林小班外 宮崎県 西都市 大字 寒川 前ノ谷国有林 102 林小班外 宮崎県 児湯郡 西米良村 大字 横野 横野国有林 134 林小班外 ※別添一覧表のとおり		
保護・管理を図るべき森林生態系、個体群に関する事項	<p>本保護林は、宮崎県西都市、国富町、西米良村が接する市町村界に存在し、九州中央山地南部の掃部岳(1,223m)周辺に位置する。掃部岳周辺からは、北東に前川、南に深年川、西に綾北川が太平洋へ流下する。</p> <p>林相は、上部はモミを中心とした中に冷温帯落葉広葉樹林を代表するブナの実質的南限域としてのシラキーブナ群集、下部に向かって常緑針葉樹のツガ、モミ、常緑広葉樹のアカガシ、夏緑広葉樹林のブナ、コハウチワカエデなどが混成するアケボノツツジツガ群集、アカガシが優占しハイノキ、シキミ、ヤブツバキ、ミヤマシキミなどが混成するミヤマシキミーアカガシ群集、モミ、ツガが優占しアカガシ、ウラジロガシが混成するコガクウツギモミ群集、ツクバネガシ、ウラジロガシ、ホソバタブ、ハイノキ、イスノキなどを区分種とするイスノキーウラジロ群集、最下部をイチイガシ、ツブラジイを優占種としルリミノキ、カンザブロウノキ、シロバイなどを区分種とするルリミノキーイチイガシ群集など、温帯域から暖温帯域までの垂直分布を示す。</p> <p>掃部岳山塊の森林自然植生の特徴は、日本の冷温帯の落葉広葉樹林であるブナ林の実質的南限植生が、暖温帯の常緑樹林であるヤブツバキクラス<small>の</small>森林海の中にかろうじて生き残っている点である。日本の自然植生を代表する三大森林植生帯(ヤブツバキクラス、ブナクラス、コケモモトウヒクラス)の境界に成立する極めてデリケートで特異な植生域として、その学術的価値は大変高い。</p> <p>ブナが生育する掃部岳山頂付近のシラキーブナ群集、尾根や岩角地にはアケボノツツジツガ群集、標高800m以上の雲霧帯におけるミヤマシキミーアカガシ群集及びそれに着生するコケ類、シダ類が見られるほか、カモシカ、イヌワシ生育の南限になっているなど西日本の自然を代表する極めて重要な自然生態系である。</p> <p>平成30年度の調査では、哺乳類はノウサギ、イノシシ、ニホンジカの3科3種、両生類はニホンヒキガエル、タゴガエル等3科3種が、鳥類ではアオゲラ、オオアカゲラ、ミソサザイ、トラツグミ等10科13種が確認された。</p> <p>旧掃部岳林木遺伝資源保存林の保存対象樹種は、モミ、アカマツ、シラカシであったが、これらの学術的価値の高い多様な自然生態系の一体的な維持を図り、併せて森林施業、森林管理技術の発展、学術研究等に資する。</p> <p>標高：800～1,223m、傾斜：急、地質：中生層頁岩、土壌型：BC・BD(d)、林齢：70～160年生、気候帯：太平洋岸気候区－九州山地型</p>		

<p>保護・管理及び利用に関する事項</p>	<p>保護・管理及び利用に関する基本的な事項については、保護林設定管理要領(平成27年9月28日付け 27林国経第49号)に定められた生物群集保護林の取扱い方針に従う。また、平成22、30年度の保護林モニタリング調査の結果を踏まえて取り扱うこととする。</p> <p>本保護林は、シカ被害が甚大な地域であり、平成22年度から平成30年度にかけて、シカ被害程度は、総体的に進行している。平成30年度調査では、全8プロット中4プロットがレベル4の森林が破壊された段階、他がレベル3の森林の内部構造が破壊された段階となり、危機的な状況にある。</p> <p>樹木の生育状況については、1プロットを除き、立木は順調に生育しており、林内環境は安定していると考えられる。一方、自動撮影カメラにより、シカが本保護林に多く生息していることが示唆され、草本類の著しい低下及び忌避植物の増加が認められており、餌資源の減少によりニホンカモシカが、本保護林で生息できなくなっている可能性が考えられる。</p> <p>今後も引き続きモニタリング調査を継続し、森林の植生構造の回復、既存植生保護柵の定期点検及び増設、早急なシカ個体数管理の実施、保護対象種ブナ等の単木的防護による天然更新の促進、土壌流亡対策、併せて、シカ食害の影響を受けている可能性のあるニホンカモシカの生息基盤の確保を図るため必要な対策を講じることとする。</p>
<p>モニタリングの実施間隔及び留意事項</p>	<p>5年(シカ被害を考慮し、巡視等を通じて状況を確認しつつ、場合によって3年以下とすることも検討する。)</p>
<p>法令等に基づく指定概況</p>	<p>保安林(水源涵養)、(県設)掃部岳北部自然環境保全地域(特別)、鳥獣保護区(特別保護・普通)</p>
<p>その他留意事項</p>	<p>旧掃部岳林木遺伝資源保存林(一部) 平成2年3月31日  旧掃部岳学術参考保護林 昭和50年3月31日  「綾川上流緑の回廊」の設定方針(平成18年3月)  「保護林制度の改正について」(平成27年9月28日付け27林国経第49号)に伴い、平成30年4月1日再編(旧掃部岳植物群落保護林)</p>

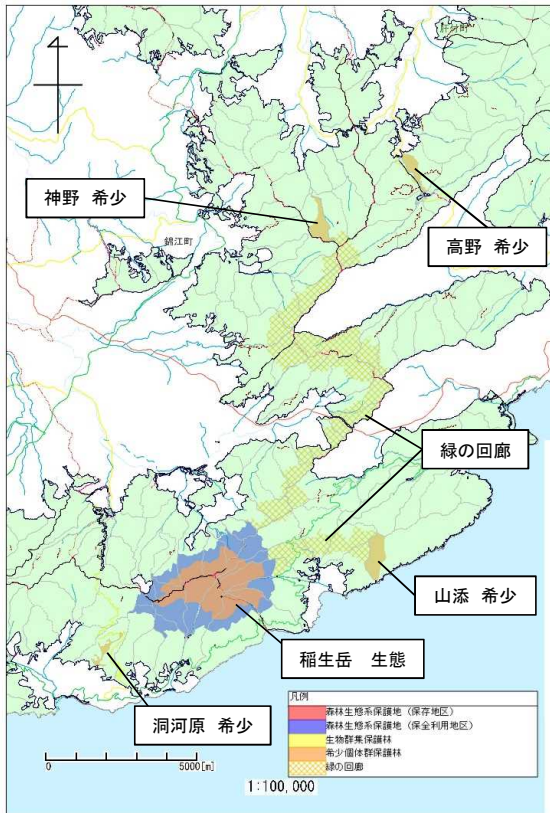
管理方針書 希少-50

(新)

名 称	くみやま 国見山コウヤマキ等希少個体群保護林	管理(支)署	西都児湯森林管理署
面 積 (ha)	7.61	設定年月日	平成24年3月23日
		変更年月日	平成30年4月1日再編
位置及び区域 (森林生態系保護地域及び生物 群集保護林においては)	宮崎県 西都市 吹山国有林 17 か、19 る 林小班		
保護・管理を図るべき 森林生態系、個体群に 関する事項	<p>本保護林は、宮崎県の中央、西都市と西米良村の境界付近に位置する国見山の山頂北東側にあり、モミ、ツガ、ハインキ、シキミ、ミヤマシキミ、アカガシ、ヒメシャラによって標徴区分される「コガクウツギーモミ群集」が発達し、ツガ、コウヤマキ、アカガシ等が優占する暖温帯性針葉樹林となっている。山頂付近は雲霧林的であり、シノブ・セッコク等の着生植物も生育している。尾根、急傾斜地にはツガ、コウヤマキ、ヒメコマツ等針葉樹が、緩傾斜地にはアカガシ、ウラジロガシ等常緑広葉樹が生育する。また、九州では宮崎県だけに生育するコウヤマキ、ズイナ、ウワバミソウ等襲速紀要素の植物が生育し、コウヤマキは生育南限に近いとされる。生育南限に近いコウヤマキのほか、ツガ・アカガシ等が生育する林分を保護するとともに、学術研究等に資する。</p> <p>さらに、国見山周辺は、「国見山山系南東稜斜面のモミ・ツガ林」として特定植物群落にも指定されているほか、キバナノツキホトトギス等固有種も多く、ミツバツツジ類やコゴメカラマツなどこの山地で種分化したと考えられる種も多いとされ、極めて稀な植物群落として九州でも貴重な地域である。平成26年度調査時には、34科54種の維管束植物が確認されている。動物相では、ノウサギ、アカネズミ、タヌキ、イノシシ、ニホンジカ等のほか、ムササビ、ニホンカモシカの生息が確認されている。</p> <p>標高：760～1,036m、傾斜：32°～47°、傾斜方位：北西～東、地質：凝結堆積物(砂岩)、土壌型：褐色森林土(BA・BC・BD(d)型)、林齢：200年以上</p>		
保護・管理及び利用に 関する事項	<p>保護・管理及び利用に関する基本的な事項については、保護林設定管理要領(平成27年9月28日付け 27林国経第49号)に定められた希少個体群保護林の取扱い方針に従う。また、平成26、30年度の保護林モニタリング調査結果を踏まえて取り扱うこととする。</p> <p>本保護林は、平成26年度調査時から、平成30年度調査時にかけてシカ被害が継続しており、下層植生は植被率が極めて低く、貧弱で見通しが良く、森林の内部構造が破壊された段階のレベル3となっている。シカ被害は進行しつつあり、レベル4まで達する可能性がある。平成26年度調査時には、ツガ、コウヤマキ等稚幼樹が確認されているが、平成30年度調査では後継個体の稚幼樹が確認されておらず、林冠のうっぺいとともシカ害の影響が懸念される。</p> <p>今後は、モニタリング調査を継続しつつ、下層植生回復のため、シカの個体数管理と植生保護柵の設置・拡充、後継樹育成のための天然更新の促進等必要な対策を講じていくこととする。</p>		
モニタリングの実施間隔 及び留意事項	5年		
法令等に基づく指定 概要	保安林(水源涵養)		
その他留意事項	「保護林制度の改正について」(平成27年9月28日付け27林国経第49号)に伴い、平成30年4月1日再編(旧国見山植物群落保護林)		

## 統合すべきか検討

稲尾岳	生態
神野	希少
山添	希少
高野	希少
洞河原	希少



## 稲尾岳森林生態系保護地域



保護林遠景



保護林内部



保護林内部

## 神野イスノキ等遺伝資源希少個体群保護林



保護林遠景



イスノキ



モミ

山添タブノキ等遺伝資源希少個体群保護林



保護林遠景



タブノキ



保護林近景

高野スタジイ等希少個体群保護林



保護林遠景



保護林近景

洞河原タブノキ等希少個体群保護林



保護林遠景



保護林近景

## 管理方針書 生態 - 4

名称	いなおだけしゅうへん 稲尾岳周辺森林生態系保護地域	管理(支)署	大隅森林管理署
面積 (ha)	1,045.48 保存地区 : 456.91 保全利用地区 : 588.57	設定年月日	平成6年4月1日
		変更年月日	平成30年4月1日再編
位置及び区域 (森林生態系保護地域及び生物 群集保護林においては 保存地区、保全利用地区それ ぞれの位置及び区域)	鹿児島県肝属郡 肝付町 山添 国有林 1085 ほ 林小班外 錦江町 内之牧国有林 3051 と 林小班外 南大隅町 洞河原国有林 3120 に 林小班外		
保護・管理を図るべき 森林生態系、個体群に 関する事項	原生的な天然林(スダジイ・イスノキ・モミ・アカガシ等)を保存することにより、自然環境の維持、動植物の保護、遺伝資源の保存、 学術研究などに役立てるとともに、これらの森林を後世に引き継ぐことにする。		
保護・管理及び利用に 関する事項	稲尾岳周辺森林生態系保護地域は、九州本土最南端の大隅半島、鹿児島県肝属郡肝付町・錦江町・南大隅町に位置しており、地形は、大隅 半島の中央部を東から南走する国見岳(標高887m) 甫与志岳(標高968m)、荒西岳(標高834m)、六朗館岳(標高754m)、四坂岳(標高7 45m)を結ぶ脊梁山地の最南部にあつて、東側は急斜面で太平洋に面し、西側は比較的緩傾斜で広がりがある。当地域の中心は稲尾岳(標 高930m)で、林相は、標高800m以上にはモミ、標高750m以上にはアカガシ、標高600~700mにはイスノキが群落があり、原生的な天然 林となっている。また、当地域には「タカクマミツバツツジ・シロモジ」等稲尾岳を南限とする植物、一方稲尾岳を北限とする「オオコマユミ、ムツ チャガラ」の南方系の植物がみられる。保存地区では、狩猟、魚釣り、山菜の採取、キャンプ等はしないように入林者へ協力要請をしている。  保存地区 … 禁伐 原則として人手を加えずに、自然の推移にゆだねる。 保全利用地区 … 木材生産を目的とする森林施業は行わない。ただし、人工林については複層林施業等を行い将来は 天然林へ移行を図るよう取り扱う。		
モニタリングの実施間隔 及び留意事項	5年		
法令等に基づく指定 概況	保安林(水源涵養・土砂流出防備・魚付)、稲生岳自然環境保全地域(特別)、史跡名勝天然記念物、鳥獣保護区(普通)		
その他留意事項	旧内之浦 山添85ほ外 307.61 旧大根占 内之牧51と外 737.87 計 1,045.48 } 稲尾岳学参	特 徴 植物・・・シイを中心とする暖温帯常緑広葉樹林帯に属し、 山頂には一部モミ、ツガが混生 動物・・・ニホンジカ等の哺乳類、キリシマミドリシジミ、クチドリ アツバコガネ、ムツボシシロカミキリ等の昆虫類	
	稲尾岳周辺森林生態系保護地域計画(平成6年3月) 「大隅半島緑の回廊」の設定方針(平成13年3月) 「保護林制度の改正について」(平成27年9月28日付け27林国経第49 号)に伴い、平成30年4月1日再編(旧稲尾岳周辺森林生態系保護地域)		



管理方針書 希少 - 68

名 称	かみの 神野イスノキ遺伝資源希少個体群保護林	管理(支)署	大隅森林管理署
面 積 (ha)	50.88 平成19年度37.40ha拡張	設定年月日	昭和63年3月31日
		変更年月日	平成20年3月31日 平成30年4月1日再編
位置及び区域 (森林生態系保護地域及び生物 群集保護林においては 保存地区、保全利用地区それ ぞれの位置及び区域)	鹿児島県 鹿屋市 吾平町 神野国有林 19 ほ 林小班 は、に、に1 林小班		
保護・管理を図るべき 森林生態系、個体群に 関する事項	イスノキの保存		
保護・管理及び利用に 関する事項	<p>神野イスノキ遺伝資源希少個体群保護林は、鹿屋市の八山岳(標高940m)北西に位置し、周囲を国有林に囲まれており、標高650m~840mの北向斜面にある。林相は、主にイスノキ(本数70%・材積50%)から成る林齢150年以上の天然林で、他にモミ、カシ類、シイ類等もある。本保護林は、平成13年4月1日設定の大隅半島緑の回廊が連結する稲尾岳周辺森林生態系保護地域や山添林木遺伝資源保存林との一翼となっている。</p> <p>標高:700m、傾斜:急、地質:花崗岩、土壌型:BC、林齢:150年生以上</p> <p>禁 伐 更新は、天然更新によることとする。</p>		
モニタリングの実施間隔 及び留意事項	5年		
法令等に基づく指定 概況	保安林(水源涵養)		
その他留意事項	旧名称「神野学参」面積13.48ha 設定 昭和 48.3.31 「大隅半島緑の回廊」の設定方針(平成13年3月) 「保護林制度の改正について」(平成27年9月28日付け27林国経第49号)に伴い、平成30年4月1日再編(旧神野林木遺伝資源保存林)		

管理方針書 希少 - 69

名 称	やまぞえ 山添タブノキ等遺伝資源希少個体群保護林	管理(支)署	大隅森林管理署
面 積 (ha)	69.11	設定年月日	昭和63年3月31日
		変更年月日	平成30年4月1日再編
位置及び区域 (森林生態系保護地域及び生物 群集保護林においては 保存地区、保全利用地区それぞ れの位置及び区域)	鹿児島県 肝属郡 肝付町 山添国有林 1081 ふ1、こ 林小班		
保護・管理を図るべき 森林生態系、個体群に 関する事項	タブノキ、イスノキ、マテバシイ、スダジイの保存		
保護・管理及び利用に 関する事項	<p>山添タブノキ等遺伝資源希少個体群保護林は、鹿児島県大隅半島の肝属山系東南部に位置し、太平洋を望む斜面にあり急傾斜地となっており、周囲は国有林に囲まれている。林相は、天然生の常緑広葉樹林で、タブノキ、イスノキ、マテバシイ、スダジイ等で、樹齢は155年生以上となっている。隣接する道路網もないので地域住民等の散策等の利用も殆どない。この保護林は、平成13年4月1日設定の大隅半島緑の回廊が連結する稲尾岳周辺森林生態系保護地域や神野林木遺伝資源保存林との一翼となっている。</p> <p>標高:100m 傾斜:急 地質:花崗岩 土壌型:BD(d)、 林齢:155年生以上</p> <p>伐採は、保存対象種の存続うに支障がない限り、原則として枯損木及び被害木の除去を中心とした弱度の択伐とする。更新は、原則として天然更新とする。必要に応じて地表処理、伐出し等の更新補助作業を行う。</p>		
モニタリングの実施間隔 及び留意事項	5年		
法令等に基づく指定 概況	保安林(魚付)、大隅南部県立自然公園(特2)		
その他留意事項	<p>「大隅半島緑の回廊」の設定方針(平成13年3月)</p> <p>「保護林制度の改正について」(平成27年9月28日付け27林国経第49号)に伴い、平成30年4月1日再編(旧山添林木遺伝資源保存林)</p>		

管理方針書 希少 - 71

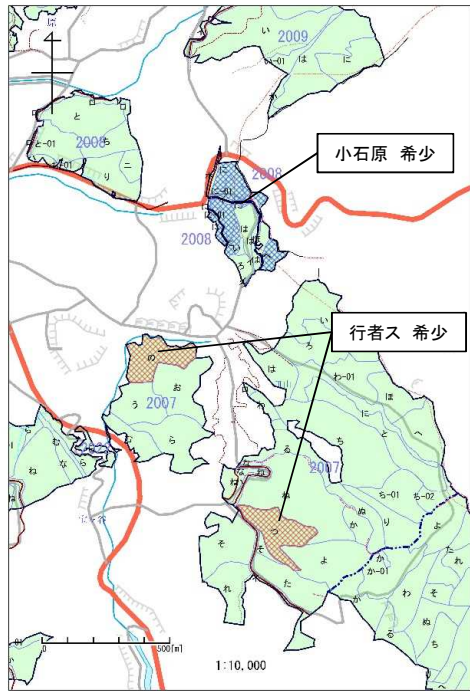
名 称	たかの 高野スダジイ等希少個体群保護林	管理(支)署	大隅森林管理署
面 積 (ha)	33.92	設定年月日	平成27年3月2日
		変更年月日	平成30年4月1日再編
位置及び区域 (森林生態系保護地域及び生物 群集保護林においては 保存地区、保全利用地区それぞ れの位置及び区域)	鹿児島県 肝属郡 肝付町 高野国有林 42 ち、ち1、り、ぬ 林小班		
保護・管理を図るべき 森林生態系、個体群に 関する事項	スダジイ、タブノキ、イスノキ等の巨木が生育する自然性の高い群集の保護を図ると共に、学術研究等に資する。		
保護・管理及び利用に 関する事項	<p>高野スダジイ等希少個体群保護林は、大隅半島南端の稲尾岳と甫与志岳に挟まれた肝付町内高山川右岸側斜面にあり、スダジイ、タブノキ、イスノキ等の巨木が生育するイスノキウラジロガシ群集が成立している。群集内には地理的な特徴を反映し、九州南部を北限とする南方系の種も生育しており、自然性の高い希少な植物群落である。</p> <p>標高：200～470m、傾斜：23°～30°、傾斜方位：北西～南、地質：深成岩(花崗岩質岩石)、火山性岩石(ローム)、 土壌型：褐色森林土((BA・BC・BD・BD(d)型)、林齢：150年生以上</p> <p>極盛相にあるものは、原則として人手を加えずに自然の推移に委ねる。遷移の途中相にあるものは、その現状の維持に必要な森林施業は行うことができるものとするが、クマタカの営巣が確認されていることから11月から7月の時期について、大規模な森林作業等を行わない等の配慮が必要である。</p> <p>なお、モニタリング調査、学術研究その他公益上必要な行為、非常災害のため応急措置として行う行為、標識類の設置等、軽微な施設の設置、その他法令等の規定に基づき行うべき行為はできるものとする。</p>		
モニタリングの実施間隔 及び留意事項	5年		
法令等に基づく指定 概況	保安林(土砂流出防備)、砂防指定地		
その他留意事項	「保護林制度の改正について」(平成27年9月28日付け27林国経第49号)に伴い、平成30年4月1日再編(旧高野植物群落保護林)		

## 管理方針書 希少 - 70

名 称	どろがわら 洞河原タブノキ等希少個体群保護林	管理(支)署	大隅森林管理署
面 積 (ha)	20.82	設定年月日	平成25年3月15日
		変更年月日	平成30年4月1日再編
位置及び区域 (森林生態系保護地域及び生物 群集保護林においては 保存地区、保全利用地区それぞ れの位置及び区域)	鹿児島県 肝属郡 南大隅町 洞河原国有林 3116 に、ほ、か、お、の 林小班		
保護・管理を図るべき 森林生態系、個体群に 関する事項	タブノキの大径木等が生育し、ヘツカランやオオタニワタリ等の希少な着床植物を保護するとともに、学術研究等に資する。		
保護・管理及び利用に 関する事項	<p>洞河原タブノキ等希少個体群保護林は、タブノキの大径木が占有し、ヘツカラン・ナゴラン・オオタニワタリ等の南方系の着床植物が多く生育する自然性の高いムサシアブミータブノキ群集となっており、この群集においては全国的に残存林分は少なく、希少な植物群落である。</p> <p>また、保護林区域で生育が確認されたヘツカランは分布が大隅半島周辺に限られており、絶滅が危惧されている植物である。保護林区域においては、タブノキ等の立木や倒木において、非常に高い密度で生育しており、ヘツカランの自生地として非常に重要な植物群落である。</p> <p>標高:140~460m、 傾斜:20° ~35° 、 傾斜方位:西~南~東、 地質:深成岩(花崗岩質岩石)、 土壌型:褐色森林土(BC・BD・BD(d)・B/C、B/D型)、 林齢:150年</p> <p>極盛相にあるものは、原則として人手を加えずに自然の推移に委ねる。遷移の途中相にあるものは、その現状の維持に必要な森林施業は行うことができるものとする。</p> <p>なお、モニタリング調査、学術研究その他公益上必要な行為、非常災害のため応急措置として行う行為、標識類の設置等、軽微な施設の設置、その他法令等の規定に基づき行うべき行為はできるものとする。</p>		
モニタリングの実施間隔 及び留意事項	5年		
法令等に基づく指定 概況	保安林(水源涵養)		
その他留意事項	「保護林制度の改正について」(平成27年9月28日付け27林国経第49号)に伴い、平成30年4月1日再編(旧洞河原植物群落保護林)		

統合すべきか検討

小石原 希少  
行者ス 希少



小石原スギ遺伝資源希少個体群保護林



保護林遠景



大王スギ



保護林近景

行者スギ希少個体群保護林



保護林遠景



保護林近景



保護林近景

## 管理方針書 希少 - 4

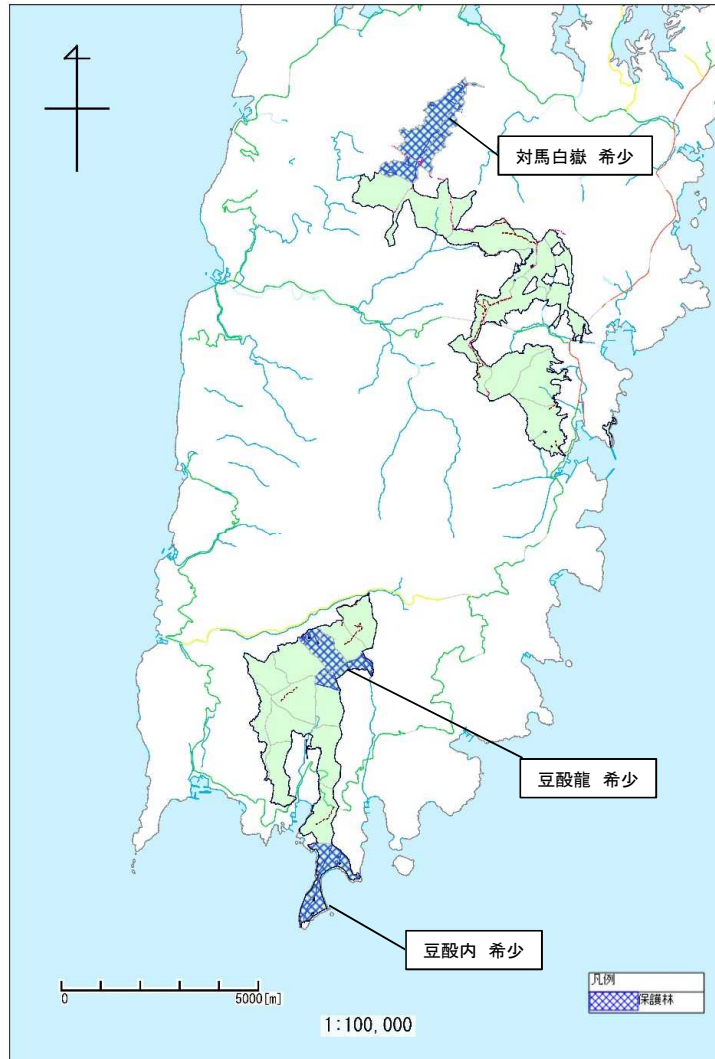
名 称	こいしはら 小石原スギ遺伝資源希少個体群保護林	管理(支)署	福岡森林管理署
面 積 (ha)	4.68	設定年月日	昭和63年3月31日
		変更年月日	平成30年4月1日再編
位置及び区域 (森林生態系保護地域及び生物 群集保護林においては 保存地区、保全利用地区それぞ れの位置及び区域)	福岡県 朝倉郡 東峰村 宿平国有林 2008 に、に1、へ 林小班		
保護・管理を図るべき 森林生態系、個体群に 関する事項	<p>本保護林は、福岡県東峰村小石原に位置し、焼き物の郷として知られる皿山地区には50軒の小石原焼の窯元が点在している。国有林内には、古くから行者堂があり、その周辺に所在する一群の老齢スギを通称「行者スギ」と称している。行者スギは、老齢なもの樹齢約500年、現存林分の大部分を構成するもの樹齢約200～300年と推察されている。修験者達が豊前国との境界であるこの地で禊(みそぎ)を行った時に、信仰上の理由から行者堂付近に奉納植栽したものと伝えられる。スギの中には平成12年4月「森の巨人たち百選」に選ばれた「大王スギ(行者の父)」がある。近傍には「行者スギ希少個体群保護林」があり、その保全保護が図られている。スギ(行者スギ)の個体群の持続性を向上させること、併せて森林施業、管理技術の発展、学術研究等に資することを目的とする。</p> <p>標高:480m、 傾斜:緩、 地質:安山岩、 土壌型:BD(d)、 林齢:に1小班 8年生以上、に、へ1小班 360年生以上 H30.4.1再編: 旧保護林名称「小石原林木遺伝資源保存林」 所在区域:上記林小班と同様</p>		
保護・管理及び利用に 関する事項	<p>保護・管理及び利用に関する基本的な事項については、保護林設定管理要領(平成27年9月28日付け27林国経第49号)に定められた希少個体群保護林の取扱い方針に従う。</p> <p>これに加え、本保護林については、これまでの保護林モニタリング調査結果を踏まえて取り扱うこととする。</p> <p>平成19、24、29年度の調査によれば、毎木調査では直近5年間に、現状維持又は確認本数、材積増加が見られ、保護林の要件を満たしているが、シカ被害レベルは2～3となっている。新たな被害木は殆ど見られないが、被害対策が必要なレベルである。草本層の植被率は減少し忌避植物の増加等といった植生や階層構造の変化が懸念される。保護対象種スギ個体群への被害は及んでいないが、林床植生保護及び乾燥化を防ぐため、植生保護柵の設置やシカ個体数の管理等の対策を検討する。また、同様の起源である隣接保護林「行者スギ希少個体群保護林」とともに、成長量把握等により老齢スギ林の群落としての保護管理対策及び両保護林の統合を検討する。</p>		
モニタリングの実施間隔 及び留意事項	5年		
法令等に基づく指定 概況			
その他留意事項	旧名称「行者スギ学術参考保護林」 昭和25年3月31日設定		

## 管理方針書 希少 - 5

名 称	ぎょうじや 行者スギ希少個体群保護林	管理(支)署	福岡森林管理署
面 積 (ha)	6. 22	設定年月日	平成5年3月31日
		変更年月日	平成30年4月1日再編
位置及び区域 (森林生態系保護地域及び生物 群集保護林においては 保存地区、保全利用地区それぞ れの位置及び区域)	福岡県 朝倉郡 東峰村 花園国有林 2007 つ 林小班 山塚国有林 2007 の 林小班		
保護・管理を図るべき 森林生態系、個体群に 関する事項	<p>本保護林は、福岡県東峰村で国道211号線の近くに位置し、当箇所は2団地からなり小石原盆地の丘陵上にある。地形は緩傾斜又は平坦地であって、土壌は埴質の安山岩、風化土壌を主とし、深く、殊に腐植質を混ざる表層土は普通林地に比べて著しく深い。また、林齢170年以上のスギ林であって、ヘクタール当たり1,000m<sup>3</sup>程度の蓄積を有する優良林分である。また、近傍には同様の起源と思われる「小石原スギ(行者スギ) 遺伝資源希少個体群保護林」があり、ともに保全保護が図られている。「行者スギ」老齢林の個体群の持続性を向上させることを目的とし、併せて森林施業、管理技術の発展、学術研究等に資する。</p> <p>標高:480m、 傾斜:中、 地質:安山岩類、 土壌型:BD(d)、 林齢:170~200年生以上</p>		
保護・管理及び利用に 関する事項	<p>保護・管理及び利用に関する基本的な事項については、保護林設定管理要領(平成27年9月28日付け27林国経第49号)に定められた希少個体群保護林の取扱い方針に従う。</p> <p>これに加え、本保護林については、これまでの保護林モニタリング調査結果を踏まえて取り扱うこととする。</p> <p>平成19、24、29年度の調査によれば、林内の一部においてはH29年7月の九州北部豪雨の影響により表土や下層植生が流失した箇所があるが、毎木調査の結果、本数、材積に変化は見られず、林内環境は安定しているため、保護林要件は満たされている。シカ被害レベルは3に達しているが、新たなシカ被害は見られない。同様の起源である隣接保護林「小石原スギ遺伝資源希少個体群保護林」とともに、巡視、土留め工、植生保護柵を設置、個体数管理等の対策を検討する。</p> <p>また、成長量把握等により老齢スギ林の群落としての保護管理対策及び近傍にあつて類似する両保護林の統合を検討する。</p>		
モニタリングの実施間隔 及び留意事項	九州北部豪雨の影響があつたものの、現状維持、林内環境は安定との結果であり、モニタリング実施間隔基準に照らし、5年とする。		
法令等に基づく指定 概況	保安林(水源涵養)		
その他留意事項	旧名称「行者スギ学術参考保護林」 昭和25年3月31日設定		

## 統合すべきか検討

対馬白嶽 希少  
豆酏内 希少  
豆酏龍 希少



## 対馬白嶽アカガシ等希少個体群保護林



保護林遠景



保護林近景



豆酩内院龍良山神崎スダジイ等  
希少個体群保護林



保護林遠景



保護林近景



保護林近景

豆酩龍良山スダジイ等遺伝資源  
希少個体群保護林



保護林遠景(龍良山山頂から北西方面)



スダジイ



保護林近景

管理方針書 希少-18

(新)

名 称	つつないんたつらやまかんざき 豆殿内院龍良山神崎スタジイ等希少個体群保護林	管理(支)署	長崎森林管理署
面 積 (ha)	98.93	設定年月日	平成22年3月25日
		変更年月日	平成30年4月1日再編
位置及び区域 (森林生態系保護地域及び生物 群集保護林においては 保存地区、保全利用地区それぞれ)	長崎県 対馬市 厳原町 豆殿内院龍良山国有林 333 い、ろ、は、に 林小班		
保護・管理を図るべき 森林生態系、個体群に 関する事項	<p>本保護林は、対馬市、対馬下島の最南端に位置する神崎半島と半島の付け根の松無山(標高250m)の南側斜面に位置している。林相は、ほぼ全域にわたりスタジイ、イスノキ等からなる自然性の高い暖地性照葉樹林が広がり、また、半島の主に鞍部には長崎県では島嶼のみに生育する自然性、希少性の高いナタオレノキ群落となっている。</p> <p>神崎半島に位置する本保護林は、平成21年度に保護林設定され、類似する2つの照葉樹林の保護林が隣接して存在することとなった。スタジイ、イスノキ、ナタオレノキ、その他広葉樹の天然林の保護を図るとともに、森林施業・管理技術の発展、学術研究等に資する。</p> <p>標高:100m、傾斜:急、地質:花崗岩・石英斑岩、土壌型:BC、林齢:58~115年生以上</p>		
保護・管理及び利用に 関する事項	<p>保護・管理及び利用に関する基本的な事項については、保護林設定管理要領(平成27年9月28日付け 27林国経第49号)に定められた希少個体群保護林の取扱い方針に従う。また、平成25、30年度の保護林モニタリング調査を踏まえて、取り扱うこととする。</p> <p>調査プロットは4プロットあり、平成25年度はシカ被害レベルが1-2だったものから、平成30年度にはレベルが3-4となり、森林の内部構造の破壊または森林が破壊された段階にまでシカ被害レベルが急速に上がっている。樹木の生育状況調査においては、確認本数に変化はないものの、下層植生の植被率は、全プロットで減少し、出現種数も半減した。林内見通しがよく、種の多様性が低下し、森林更新への影響が懸念される。植生回復、森林の更新促進などの緊急のシカ対策を進める必要がある段階である。</p> <p>今後は、集中したシカ捕獲による早急な個体数管理を進めつつ、植生保護柵の設置、拡充を図ること、天然更新の促進等総合的に対策を検討し、可能なものから実施することとする。</p> <p>なお、今後、近傍にあって林相が類似する豆殿龍良山スタジイ等遺伝資源希少個体群保護林、及び対馬白嶽アカガシ等希少個体群保護林の2つの保護林を含めて生物群集保護林として統合を検討する。</p>		
モニタリングの実施間隔 及び留意事項	5年		
法令等に基づく指定 概況	保安林(魚付・航行目標)、壱岐対馬国定公園(特2)		
その他留意事項	「保護林制度の改正について」(平成27年9月28日付け27林国経第49号)に伴い、平成30年4月1日再編(旧豆殿内院龍良山神崎植物群落保護林)		

管理方針書 希少-17

(新)

名 称	つつたつらやま 豆酩龍良山スタジイ等遺伝資源希少個体群保護林	管理(支)署	長崎森林管理署
面 積 (ha)	116.93	設定年月日	平成元年3月31日
		変更年月日	平成22年3月25日 平成30年4月1日再編
位置及び区域 (森林生態系保護地域及び生物 群集保護林においては)	長崎県 対馬市 厳原町 豆酩龍良山国有林 323 い、ろ、は、324 か、330 る、た、れ、そ、そ1 林小班		
保護・管理を図るべき 森林生態系、個体群に 関する事項	<p>豆酩龍良山スタジイ等遺伝資源希少個体群保護林は、対馬下島の南西部、龍良山の北西斜面に設置されており、全域が連続した照葉樹林となっている。植生は海拔350m付近を境に、下方をスタジイーイスノキ林、上方をアカガシ林が成立する。林内には胸高直径1m以上のスタジイを始め、イスノキ、アカガシ、イヌマキ等、天然林に近い照葉樹林は最大級の規模といわれている。</p> <p>主峰・龍良山(558m)は、霊山として島民に崇められている。史跡名勝天然記念物、壱岐対馬国定公園に指定され、年間を通じ登山客も多く見受けられる。また、麓には厳原町が整備した「鮎もどし自然公園」があり、公園から保護林を一望できる展望台、キャンプ場等があり、多くの観光客が訪れている。</p> <p>標高:100~500m 傾斜:中~急 地質:古3砂岩 土壌型:BD(d) 林齢:90~190年生以上</p>		
保護・管理及び利用に 関する事項	<p>保護・管理及び利用に関する基本的な事項については、保護林設定管理要領(平成27年9月28日付け 27林国経第49号)に定められた希少個体群保護林の取扱い方針に従う。また、平成20、25、30年度の保護林モニタリング調査を踏まえて、取り扱うこととする。</p> <p>また、本保護林は従前からシカ被害が発生しており、平成25年度から平成30年度にかけて、シカ被害レベルは2から3へと上昇し、平成30年度調査においては、草本層、下層植生の衰退が認められアオキ等の嗜好植物が欠落し、忌避植物が増加した。林床の種多様性は失われつつあり、林内見通しも良い状態となっている。後継個体は一部確認はされたものの、このままシカ被害が進行すれば、将来の天然林の更新が懸念されるなど、早急に対策を進める必要がある段階である。</p> <p>今後は、集中したシカ捕獲による個体数管理を進めつつ、植生保護柵の設置、拡充を図ること、天然更新の促進等総合的に対策を検討し、可能なものから実施することとする。なお、本保護林は、林木の特異性等から多くの研究機関が研究を行っているため、今後研究機関との連携も視野に検討する。</p> <p>なお、今後、近傍にあつて林相が類似する豆酩内院龍良山神崎スタジイ等希少個体群保護林、対馬白嶽アカガシ等希少個体群保護林の2つの保護林を生物群集保護林として統合を検討する。</p>		
モニタリングの実施間隔 及び留意事項	5年		
法令等に基づく指定 概況	保安林(干害防備・保健・風致)、壱岐対馬国定公園(特保・特2・特3)、史跡名勝天然記念物、鳥獣保護区(特別保護・普通)		
その他留意事項	平成21年度19.52ha(330れ、そ、そ1林小班)拡張 「保護林制度の改正について」(平成27年9月28日付け27林国経第49号)に伴い、平成30年4月1日再編(旧豆酩龍良山林木遺伝資源保存林)		

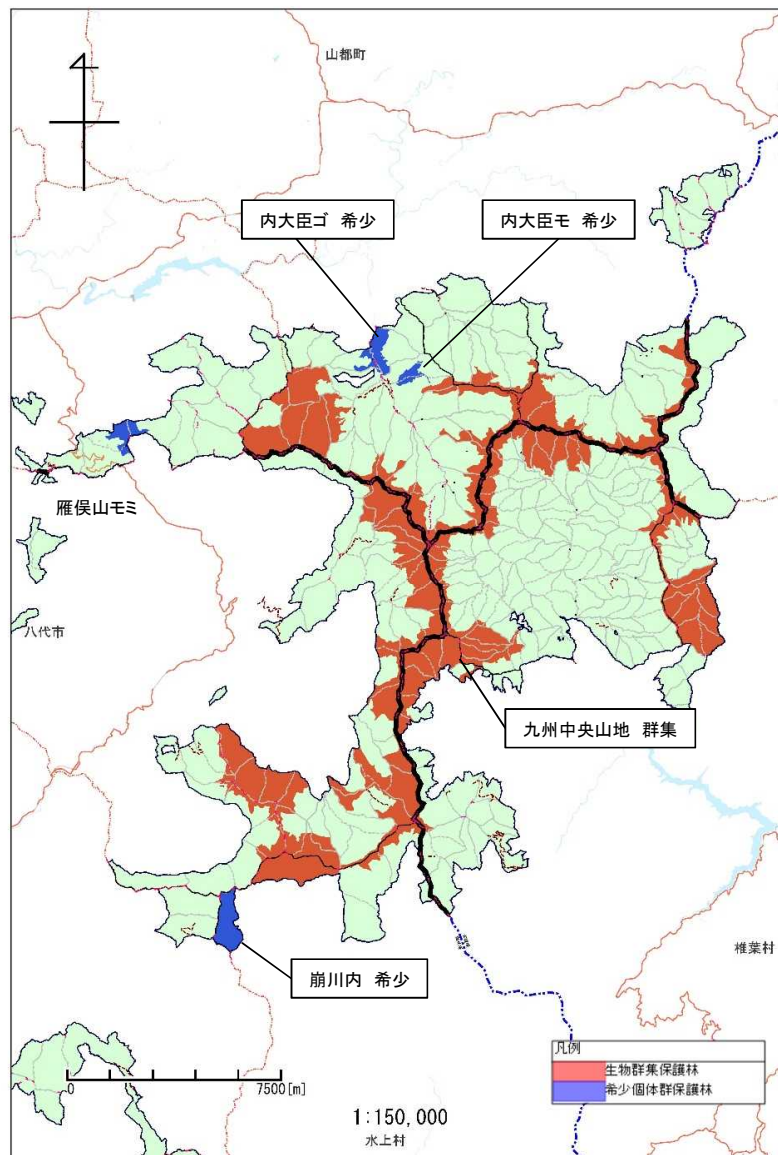
管理方針書 希少-20

(新)

名称	つしましらたけ 対馬白嶽アカガシ等希少個体群保護林	管理(支)署	長崎森林管理署
面積 (ha)	197.95	設定年月日	平成22年3月25日
		変更年月日	平成30年4月1日再編
位置及び区域 (森林生態系保護地域及び生物 群集保護林においては 保存地区、保全利用地区それぞ れの位置及び区域)	長崎県 対馬市 美津島町 阿連白岳国有林 337 り、り1、ぬ、る、れ1 林小班 " 加志白岳国有林 338 い、ろ、は、に、ほ、イ 林小班 " 洲藻白岳国有林 339 い、ろ、は 林小班		
保護・管理を図るべき 森林生態系、個体群に 関する事項	<p>本保護林は、対馬市のほぼ中央部、対馬下島の北部に位置し、白嶽(519m)を中心に北東、南西方向に稜線が続く山塊にある。林相は、山頂部にチョウセンヤマトツジ、イワシデ群落、山腹に本土では高標高部でしか見られないアカガシ群落が成立し、モミ、ウラジロガシ等大径材も認められ、大部分が照葉樹林からなる老齢天然林であり、原生林の様相を示している。また、固有種のシマトウヒレン、ツシマギボウシや大陸系の植物のチョウセンヤマトツジ、ゲンカイツツジ、チョウセンノギク、日本系の植物であるモミ、ヒメコマツ、ソヨゴ等が見られ植物地理学的に特異性が高い。</p> <p>本保護林はアカガシ、ウラジロガシ、その他広葉樹の天然林の中に大陸系の植物や固有種が生育しており、これら植生の保護を図るとともに、森林施業・管理技術の発展、学術研究等に資することを目的とする。</p> <p>標高:400m 傾斜:急 地質:花崗岩、石英班岩 土壌型:BC 林齢:22~150年生以上</p>		
保護・管理及び利用に 関する事項	<p>保護・管理及び利用に関する基本的な事項については、保護林設定管理要領(平成27年9月28日付け 27林国経第49号)に定められた希少個体群保護林の取扱い方針に従う。また、平成25、30年度の保護林モニタリング調査を踏まえて、取り扱うこととする。</p> <p>モニタリングプロットは、既に平成25年度から全4プロットでシカ被害がみられ、タブノキへの樹皮剥ぎや、草本層の衰退が指摘されていた。平成25年度はシカ被害レベルが1-2だったものから、平成30年度にはレベルが2-4となり、森林の内部構造に変化が生じている段階から森林が破壊された段階にあるなど、シカ被害レベルが急速に上がりつつあり、4プロットの内2プロットは危機的な状況にある。これは、他の近傍の2つの保護林と同様の傾向である。即ち、全プロットでの低木植被率の減少、忌避植物への偏りや減少など草本層等下層植生の衰退が顕著である。植生回復、森林の更新促進などの対策を早急に進める必要がある段階である。</p> <p>今後は、モニタリング調査を継続するとともに、集中したシカ捕獲による早急な個体数管理を進め、固有種、希少種の保護や下層植生の回復を図るため、植生保護柵を設置、拡充し、天然更新の促進等総合的に対策を検討し、可能なものから実施することとする。</p> <p>なお、今後、近傍にあって林相が類似する豆酏龍良山スダジイ等遺伝資源希少個体群保護林、及び豆酏内院スダジイ等希少個体群保護林の2つの保護林を含めて生物群集保護林として統合を検討する。</p>		
モニタリングの実施間隔 及び留意事項	5年		
法令等に基づく指定 概況	保安林(水源涵養・干害防備・保健)、壱岐対馬国定公園(特保・特2・特3)、史跡名勝天然記念物、鳥獣保護区(普通)		
その他留意事項	「保護林制度の改正について」(平成27年9月28日付け27林国経第49号)に伴い、平成30年4月1日再編(旧対馬白嶽植物群落保護林)		

## 統合すべきか検討

中央山	群集
崩川内	希少
内大モ	希少
内大ゴ	希少



## 九州中央山地生物群集保護林



保護林遠景



保護林近景



内大臣モミ等希少個体群保護林



保護林遠景

内大臣ゴイシツバメシジミ希少個体群保護林



保護林遠景

崩川内モミ等希少個体群保護林



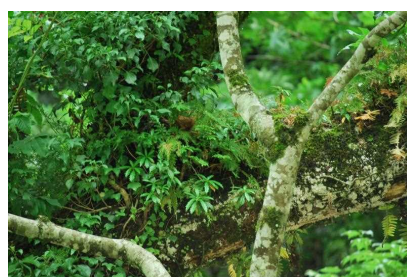
保護林遠景



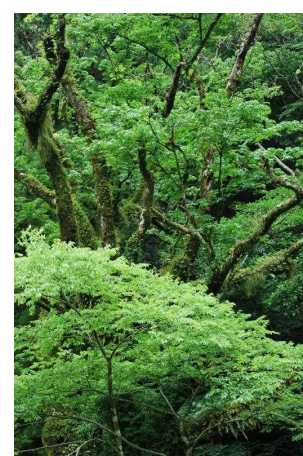
保護林近景



保護林近景



シンランの着生状況



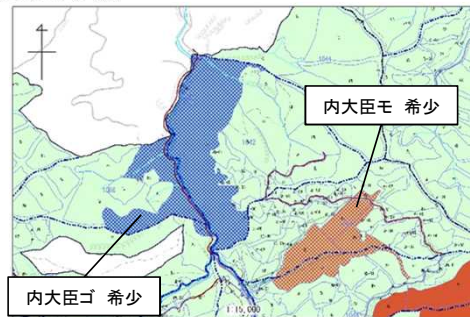
保護林近景



保護林近景



保護林近景



ゴイシツバメシジミ

管理方針書 生物-3

名 称	九州中央山地生物群集保護林			管理(支)署	熊本森林管理署・熊本南部森林管理署 宮崎北部森林管理署
面 積 (ha)	保存地区 6,038.36	熊本署	1,809.90	設定年月日	平成6年6月29日
		熊本南部署	2,234.94	変更年月日	平成30年4月1日再編
位置及び区域	保存地区 熊本県 山都町 …大官山国有林1027ふ林小班外 宮崎県 五ヶ瀬町 …波帰 国有林2089れ林小班外 熊本県 水上村 …鍵掛 国有林2034い、と林小班外 宮崎県 椎葉村 …狼谷 国有林 103い林小班外 熊本県 八代市泉町…樅木 国有林1034い林小班外				
保護・管理を図るべき 森林生態系、個体群に 関する事項	<p>本保護林は、九州の中央部分の熊本・宮崎県境に連なる九州山脈の脊梁一帯に広がった位置にある。植生は、標高1,000m以上においてはブナを主体とする落葉広葉樹が生育し、標高1,000m以下にはウレジロガシ、コジイを主とする常緑広葉樹が生育している。さらにモミ、ツガ林がモザイク状に混生している。渓谷は、サワグルミ、シオジ、ケヤキなどの落葉広葉樹が生育している。山頂部は、雲霧に包まれることが多いため、着生植物やコケ類も多い。特徴的な植生相としては、太平洋型ブナ林がまとまって分布し、一部に湿性タイプのブナ林もみられる。また、特別天然記念物二ホンカモシカ、天然記念物ヤマネ等の希少な野生動物が生息・生育している。地質は、堆積岩及び石灰岩が主体で、石灰岩地では他にみられない特異な植物が見られるなど生物多様性の高い地域である。このような地域固有の生物群集を保護・管理することにより、これらの森林生態系からなる自然環境の維持、野生生物の保護、遺伝資源の保護等に資することを目的とする。</p> <p>H30.4.1再編：旧保護林名称「九州中央山地森林生物遺伝資源保存林」所在区域：上記林小班と同様</p>				
保護・管理及び利用に 関する事項	<p>保護・管理及び利用に関する基本的な事項については、保護林設定管理要領(平成27年9月28日付け 27林国経第49号)に定められた生物群集保護林の取扱い方針に従う。</p> <p>これに加え、本保護林については、これまでの保護林モニタリング調査結果を踏まえて取り扱うこととする。</p> <p>平成19(20)、24.25.29年度の調査によれば、保護林を構成する五ヶ瀬川流域、球磨川流域、耳川流域のいずれについてもシカ被害レベルが3～4に達したプロットが約9割に達しており、急激なシカ被害の拡大傾向が顕著である。</p> <p>具体的には、スズタケ・ブナ群団を構成するブナ確認本数に変化はないが、大径木を中心に枯損や後継個体の欠落に加え、スズタケ等林床植生の欠落、矮小化も見られる。また、このような森林内部構造の破壊による影響が、自生する希少野生生物等の減少や急激な植生の変化等をもたらす生態系の変化や生物多様性の劣化に至ることが懸念される。現状の林相が極相林であり保護林要件を満たしているとしても、森林生態系の現状維持に影響が出ることが危惧される。</p> <p>このため、周辺人工林も含めて従来から行われてきたシカの個体数管理を継続、強化するとともに、希少種保護のための既設植生保護柵の維持・管理及び拡充、森林の回復・復元に向けた取組、地元関係機関との連携も視野に緊急に実行可能なシカ対策に取り組みつつ、総合的なシカ被害対策を検討する。</p>				
モニタリングの実施間隔 及び留意事項	5年				
法令等に基づく指定 概況	保安林(水源涵養・保健)、九州中央山地国定公園(特保・特1・特2・特3)、矢部周辺県立自然公園(特3)、鳥獣保護区(特別保護・普通)				
その他留意事項	過去の 統合等 の履歴	名 称	面 積	設定年月日	
		国見岳風致保護林	741.04	S 44.4.1	
		五家荘風致保護林	1,085.42	S 46.3.31	
		水上風致保護林	204.20	S 52.4.1	
		御池学術参考保護林	130.24	S 46.4.1	

管理方針書 希少-34

(新)

名 称	くずこうち 崩川内モミ等希少個体群保護林	管理(支)署	熊本南部森林管理署
面 積 (ha)	135.90	設定年月日	平成5年3月31日
		変更年月日	平成30年4月1日再編
位置及び区域 (森林生態系保護地域及び生物 群集保護林においては 保存地区、保全利用地区それぞれ)	熊本県 球磨郡 水上村 崩川内国有林 2035 い、ろ 林小班		
保護・管理を図るべき 森林生態系、個体群に 関する事項	<p>本保護林は、熊本県球磨郡水上村北部に位置し、水上村、八代市泉町、五木村の三方界で、高塚山(1,508m)の北部に位置し、銚子笹(1,489m)、山犬切(1,562m)等が連なる九州中央山地国定公園を含む一角にある。地形は殆どが急傾斜地である。</p> <p>中腹から上部にかけて、モミ、ツガ、カシ、ブナ等の針広混交の天然林となっている。中腹から下流域にあるスギ、ヒノキの人工林とともに、球磨川の源流域ともなっている。標高は1,000m～1,400mに位置する。モミ、ツガ、その他広葉樹等老齢の針広混交林の植物群落を保存し、併せて森林施業・管理技術の発展・学術研究に資する。</p> <p>標高:1,000m、傾斜:急、地質:頁岩、土壌型:BC・BD(d)、林齢:160年生以上</p>		
保護・管理及び利用に 関する事項	<p>保護・管理及び利用に関する基本的な事項については、保護林設定管理要領(平成27年9月28日付け 27林国経第49号)に定められた希少個体群保護林の取扱い方針に従う。また、平成22、27、30年度の保護林モニタリング調査を踏まえて、取り扱うこととする。</p> <p>本保護林の過年度モニタリング調査結果から、全4プロットにおいてシカ被害は、平成22年度はレベル2だったものから平成30年度にはレベル4となり植生被害が徐々に進行し、森林が破壊された段階にまで達していることが分かった。</p> <p>また、平成22年度時点では、後継個体は比較的多く確認され、平成30年度にはヒメシャラ、アオダモ、ミズメなどの記載があった。一方、下層植生は減少傾向にあり、イワヒメワラビやバイケイソウなど忌避植物への構成種の偏りが確認された。</p> <p>以上から、今後、モニタリング調査を継続し、シカ捕獲による個体数管理、植生保護柵の設置・拡充などの対策を早急に行い、シカ被害の抑制と下層植生の回復、高木層の天然更新の促進等を図るなど、対策実施後の保護林回復の状況について検証を行いながら、必要な対策を講じていくこととする。</p>		
モニタリングの実施間隔 及び留意事項	5年		
法令等に基づく指定 概況	保安林(水源涵養)、九州中央山地国定公園(特3)、鳥獣保護区(普通)		
その他留意事項	「保護林制度の改正について」(平成27年9月28日付け27林国経第49号)に伴い、平成30年4月1日再編(旧崩川内植物群落保護林)		



## 管理方針書 希少 - 30

名 称	ないだいじん 内大臣モミ等希少個体群保護林	管理(支)署	熊本森林管理署
面 積 (ha)	34.56	設定年月日	平成5年3月31日
		変更年月日	平成30年4月1日再編
位置及び区域 (森林生態系保護地域及び生物 群集保護林においては 保存地区、保全利用地区それぞ れの位置及び区域)	熊本県 上益城郡 山都町 菅内大臣国有林 1043 た、れ、そ、 1044 リ 林小班		
保護・管理を図るべき 森林生態系、個体群に 関する事項	<p>本保護林は、九州中央山地国定公園内の天主山(標高1,494m)西方にあり、標高600m~800mに位置し、西面の緩斜地である。林相は、上部はモミ、ツガが多く、下部はモミ、ツガ、ケヤキ、アカガシ、ウラジログシ、クリ、ミズメ、カエデ等(160年生以上)の優良な針広混交天然林で、中央にはアカマツと挿し穂によるスギ(胸高直径1m以上)が数本存在する。林内には、小松内大臣重盛の霊をまつる小松神社がある。小松神社御神木が平成12年4月「森の巨人たち百選」に選ばれている。これら暖帯上位植生の個体群の持続性の向上と歴史的価値の保全、小松神社の風致を図り、併せて学術研究等に資することを目的とする。</p> <p>標高:600~800m、傾斜:緩、地質:粘板岩、土壌型:BE・BD(d)、林齢:80~170年生以上</p>		
保護・管理及び利用に 関する事項	<p>保護・管理及び利用に関する基本的な事項については、保護林設定管理要領(平成27年9月28日付け27林国経第49号)に定められた希少個体群保護林の取扱い方針に従う。</p> <p>これに加え、本保護林については、これまでの保護林モニタリング調査結果を踏まえて取り扱うこととする。</p> <p>平成19、24、29年度の調査によれば、毎木調査の結果、現状維持と判断され、保護林の要件は満たすが、直近5年間でシカ食害による忌避植物の増加や草本層の種数および植被率の減少等下層植生の劣化が進行し、森林の内部構造に大きな影響が生じるなど2プロットともにシカ被害レベルが3となった。このため、下層植生の回復、土壌の乾燥化防止、保護対象種の天然更新促進のため、シカの個体数管理とともに植生保護柵設置等シカ被害対策を検討する。</p>		
モニタリングの実施間隔 及び留意事項	5年		
法令等に基づく指定 概況	保安林(水源涵養)、九州中央山地国定公園(特3)、矢部周辺県立自然公園(特3)、鳥獣保護区(普通)		
その他留意事項	旧内大臣学術参考保護林 大正12年3月31日設定 保護林制度の改正に伴い、平成30年4月1日再編(旧内大臣植物群落保護林)		

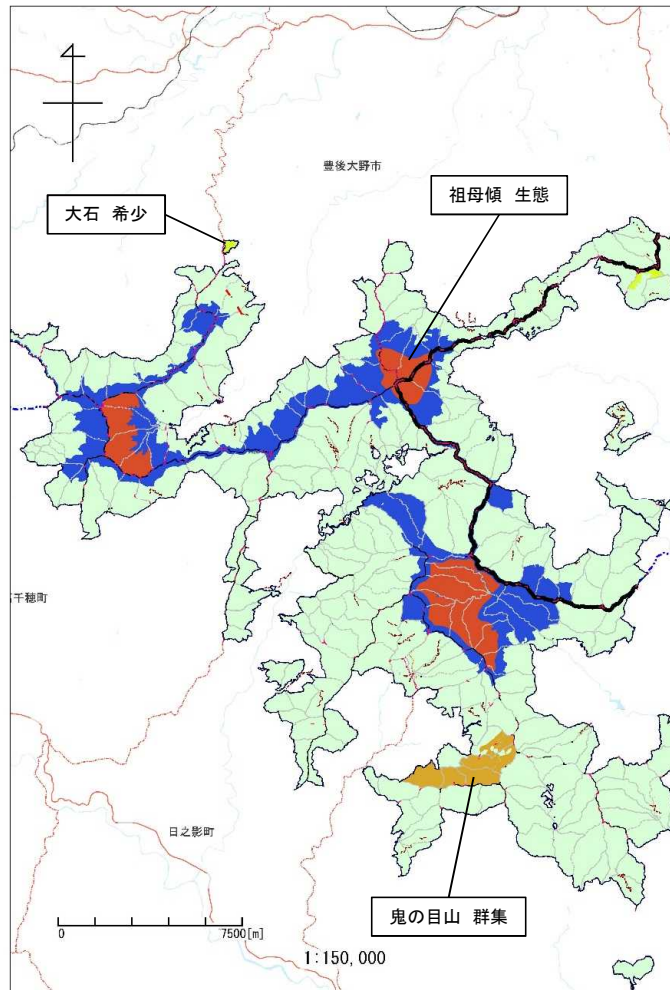
## 管理方針書 希少 - 31

名 称	ないだいじん 内大臣ゴイシツバメシジミ希少個体群保護林	管理(支)署	熊本森林管理署
面 積 (ha)	97.16	設定年月日	平成5年3月31日
		変更年月日	平成30年4月1日再編
位置及び区域 (森林生態系保護地域及び生物 群集保護林においては 保存地区、保全利用地区それ ぞれの位置及び区域)	熊本県 上益城郡 山都町 管内大臣国有林 1042 い、イ、ロ 林小班 目丸内大臣国有林 1065 い、1066 い 林小班		
保護・管理を図るべき 森林生態系、個体群に 関する事項	<p>本保護林は、山都町の九州中央山地の国見岳(標高1,739m)北側の一角で標高600m~800mの西側に面する急傾斜地に位置している。林相は、シイ、カン類の暖帯林からブナ、ミズナラ等の冷温帯林までの天然林で、モミ、ツガ、ケヤキ、アカガシ、ウラジロガシ、クリ、ミズメ、カエデ等を主体とする優良な針広混交天然林である。</p> <p>この地域の広葉樹大木に着生するシシンランの花とつぼみを摂食する「国の天然記念物」、「国内希少野生動植物種」であるゴイシツバメシジミの繁殖地及び生息地であり、この生態特性を踏まえた保護と増殖を目的とした保護管理、併せて学術研究に資する。</p> <p>標高600~800m、傾斜:急、地質:古生層粘板岩、土壌型:BD・BD(d)、林齢50~165年生以上</p>		
保護・管理及び利用に 関する事項	<p>保護・管理及び利用に関する基本的な事項については、保護林設定管理要領(平成27年9月28日付け27林国経第49号)に定められた希少個体群保護林の取扱い方針に従う。</p> <p>これに加え、本保護林については、これまでの保護林モニタリング調査結果を踏まえて取り扱うこととする。</p> <p>平成19、24、29年度の調査によれば、直近5年のシカ被害調査では、下層植生の衰退など急速にシカ被害が進行し、シカ被害レベル3となった。このため、保全対象種のゴイシツバメシジミの保全のみならず、生息する多様な動物相への影響も考慮して森林の内部構造の回復や下層植生の種多様性の回復、さらには、食草シシンランの保護・増殖、希少植物着生木の倒伏防止、林内の乾燥化防止のため、植生保護柵の設置、シカ被害木の単木の防護、シカ個体数の管理、巡視等各種対策に努める。</p>		
モニタリングの実施間隔 及び留意事項	5年		
法令等に基づく指定 概況	保安林(水源涵養)、九州中央山地国定公園(特3)、矢部周辺県立自然公園(特3)、鳥獣保護区(普通)		
その他留意事項	ゴイシツバメシジミの生息地保護については、平成9年に策定された「ゴイシツバメシジミ保護増殖事業計画」(環境庁(当時)、文部省(当時)、農林水産省)により実施している。 保護林制度の改正に伴い、平成30年4月1日再編(旧内大臣特定動物生息地保護林)		

## 統合すべきか検討

祖母傾  
鬼目山  
大石

生態  
群集  
希少



## 祖母山・傾山・大崩山周辺森林生態系保護地域



保護林遠景(左から古祖母山・障子岳・祖母山)



保護林近景(祖母山周辺)



保護林近景(祖母山周辺)



保護林遠景(傾山)



保護林近景(傾山周辺)

## 鬼の目山生物群集保護林



保護林遠景



“鬼の目杉”の巨木



アケボノツツジと保護林近景



保護林近景

## 大石椋山アカガシ等希少個体群保護林



保護林近景



保護林近景

管理方針書 生態-1

(新)

名 称	そぼさん・かたむきやま・おおくえやましゅうへん 祖母山・傾山・大崩山周辺森林生態系保護地域	管理(支)署	大分森林管理署・宮崎北部森林管理署	
面 積 (ha)	5,977.79 保存地区 : 1,579.70 保全利用地区 : 4,398.09	〔 大分署 3,030.89 宮崎北部署 2,946.90 〕	設定年月日	平成2年3月29日
			変更年月日	
位置及び区域	大分県 佐伯市 宇目町 夏木国有林 1006 ち 林小班外 竹田市 神原 祖母山国有林 2004 い 林小班外 宮崎県 延岡市 北方町 木戸ノ元国有林 2021 と 林小班外			
(森林生態系保護地域及び生物群集保護林においては保存地区、保全利用地区それぞれの位置及び区域)	※別添一覧表のとおり			
保護・管理を図るべき森林生態系、個体群に関する事項	<p>本保護林は、大分県南部の竹田市、豊後大野市、佐伯市、宮崎県北部の延岡市、日之影町、高千穂町にまたがり、大野川、北川、祝子川、五ヶ瀬川の上流域に位置する。地形は急峻で祖母山(1,757m)、傾山(1,602m)、大崩山(1,643m)を中心とした山系で、地質的には臼杵～八代構造線上にあり、砂岩、粘板岩、チャート等を基岩とした古生層からなる。</p> <p>林相は、山麓部はウラジロガシ・サカキ群集、標高700m-1,000m付近の山腹部にはアカガシ、ウラジロガシ、ツバキ等常緑広葉樹とモミ、ツガ等の常緑針葉樹との組み合わせによるモミ・シキミ群集、ツガ・ハイノキ群集などが発達する。</p> <p>また、標高1,000m以上の山地帯は冷温帯湿潤気候の極相であるブナ林がみられ、山頂の岩角地にはヒメコマツが生立し、特別天然記念物のニホンカモシカ等哺乳類や鳥類も豊富に見られる。河川には、天然記念物のイワナやアマゴが生息する。</p> <p>平成30年度のモニタリング調査における動物調査では、6目7科8種が確認されたが、ニホンジカが圧倒的に多かった。鳥類は、6目15科25種が確認され、コゲラ、ウグイスなどの留鳥16種及びカッコウ、ツツドリ等の夏鳥9種が確認された。このほか、両生類の国内希少野生動植物種で環境省絶滅危惧ⅠA類のソボサンショウウオの生息が確認された。環境省及び宮崎県の希少植物は、計15種が確認された。</p> <p>この生物多様性豊かな原生的天然林の森林生態系を保存し、自然環境の維持、動植物の保護、遺伝資源の保存、学術研究などに役立てるとともに、確実に後世に引き継ぐことが重要である。なお、同地域は、祖母・傾・大崩山系周辺地域ユネスコエコパークに登録されている。</p>			

<p>保護・管理及び利用に関する事項</p>	<p>保護・管理及び利用については、基本的には保護林設定管理要領(平成27年9月28日付け27林国経第49号)に定められた森林生態系保護地域の取扱方針並びに「祖母山・傾山・大崩山周辺森林生態系保護地域計画」に従う。また、平成19(20)、25、30年度の保護林モニタリング調査の結果を踏まえて取り扱うこととする。</p> <p>当初からほぼ全域でシカ食害が進行し、下層植生は嗜好植物の減少・衰退、忌避植物の増加が確認された。さらに、平成30年度調査で祖母山地域、傾山地域、大崩山地域の一部でシカ食害の影響と思われる表土流亡も確認された。その結果、各プロットの下層植生は総体として、極めて貧弱な状況にある。</p> <p>特に、調査の回を追う毎に食害程度が拡大する傾向にあり、19(20)年度は被害レベル1-2が大半を占めたが、直近の平成30年度は、レベル3-4が大半を占める状況となり、被害は森林の内部構造破壊にまで及んだ。さらに、プロット数の1/3(13/39)及び尾根沿いでは上層林冠木(ブナやミズナラなど)の枯損が認められ、これら母樹の枯損と実生稚樹食害のため、後継個体が見られなかった。加えて、傾山、大崩山周辺においては、林床に見られたスズタケが、食害により消失又は矮小化し、祖母山周辺では、スズタケの一斉開花枯死が認められ、実生も見られないことから、元のスズタケ生育跡地を中心に大規模な下層植生の衰退が生じている。</p> <p>現況は、極相林であり、保護林要件を満たすが、現状のままでは将来の林相維持、森林の更新は極めて困難になると予想される。平成30年度調査で山地に生息するニホンカモシカが確認されなかった。原因として、シカと食性が似通っているため、同じニッチで競合している可能性が考えられる。また、大径木の樹上を生息環境とする希少哺乳類ホンドモモンガやムササビ、希少鳥類の生息には発達した森林などの自然林が不可欠であるが、林床植生へのシカ食害の継続は、結果として自然林内の動植物の生息環境の悪化を招き、これらの種の存続自体が危機に至ることが予想される。このため、保護林全域にわたる森林生態系の回復を図り、良好な形で維持保全することが喫緊の課題である。</p> <p>このため、引き続き保護林周辺のシカ捕獲(個体数管理)を行い、生息密度低下を図るとともに、下層植生等森林の植生構造の回復、土壌流亡対策について早急に検討し対策を講じる必要があるため、従前の植生保護柵の補修、拡充、スズタケの回復等も併せて検討を進め、効果的な対策となるよう、実行可能な対策から実施していくこととする。</p>
<p>モニタリングの実施間隔及び留意事項</p>	<p>5年(シカ被害を考慮し、巡視等を通じて状況を確認しつつ、場合によって3年以下とすることも検討する。)</p>
<p>法令等に基づく指定概況</p>	<p>保安林(水源涵養・保健・土砂流出防備)、祖母傾国定公園(特保・特1・特2・特3)、祖母傾県立自然公園(普通)、史跡名勝天然記念物、鳥獣保護区(特別保護・普通)</p>
<p>その他留意事項</p>	<p>旧竹田 … 神原祖母山 4と外 2,321.00ha・・・旧祖母山学参  旧高千穂 … 木戸ノ元 21と外 1,363.50ha・・・旧祝子川学参  旧延岡 … 夏木 6ち外 2,293.29ha・・・旧祖母山学参</p> <p>祖母山・傾山・大崩山周辺森林生態系保護地域計画:平成2年4月1日設定(平成2年3月28日林野庁承認)</p>

## 管理方針書 生物-5

名 称	おにのめやま 鬼の目山生物群集保護林	管理(支)署	宮崎北部森林管理署
面 積 (ha)	保存地区 467.22	設定年月日	平成3年3月31日
		変更年月日	平成30年4月1日再編
位置及び区域 (森林生態系保護地域及び生物 群集保護林においては 保存地区、保全利用地区それぞ れの位置及び区域)	保存地区 宮崎県 延岡市 北方町 渡瀬国有林 2015～2017 全小班、2018 い～よ、れ、2019 へ～り、ぬ、る、わ 林小班		
保護・管理を図るべき 森林生態系、個体群に 関する事項	<p>本保護林は、宮崎県の北部、鬼の目山(1,491m)の西側からだき山(標高1,420m)にかけて位置し、祖母・傾国定公園の南東部に位置している。林相は、スギ、アカマツ、ヒメコマツ、ブナ、アカシデ、ミズナラ等による針広混交林である。このうち、特に林内に生育するスギは、1985年の宮崎大学の詳細な調査により最終氷期以降に生き残った天然スギ遺存集団の可能性が高いとの報告がある。加えて、最近の遺伝子解析の結果、ウラスギ系と分かるなど、九州では屋久島以外で遺伝的多様性の高い天然スギ地域集団として極めて貴重である。また、林内にはツチビノキ等地域固有な植生が多く含まれており、この点でも学術的価値が高いとされる。林床には、ヒメシヤラ、リョウブ、スズタケなどのほか、高木構成種の幼木も見られる。鬼の目山周辺の背後にそびえ、左右に大きく開けた扇子状の台地から流れる岩水は、周辺の水が集まって滝となり、花崗岩の絶壁を流れ落ちる景観は、天然広葉樹林とマッチして美しい。</p> <p>地域固有の生物群集である。天然スギをはじめ、アカマツ、ヒメコマツ、アカシデを保護対象種とし、針広混交林からなる自然環境とともに天然スギの遺伝子資源を森林生態系内に広範に保存することを目的とする。</p> <p>標高:800～1,500m、傾斜:急、地質:花崗岩、土壌型:BD(d)、林齢:85～200年生以上 H30.4.1再編: 旧保護林名称「鬼の目山林木遺伝資源保存林」 所在区域: 上記林小班と同様</p>		
保護・管理及び利用に 関する事項	<p>保護・管理及び利用に関する基本的な事項については、保護林設定管理要領(平成27年9月28日付け 27林国経第49号)に定められた生物群集保護林の取扱い方針に従う。</p> <p>さらに、平成19(20)、24、29年の保護林モニタリング調査の結果を踏まえて取り扱うこととする。</p> <p>これまでの調査の結果、保存対象樹種の本数、材積の増加があり、後継個体の生育による現状維持が確認され保護林の要件は満たしているが、近年のシカ被害の拡大は顕著で、植生保護柵設置箇所以外では、殆どのプロットで、ソヨゴ、ヒメシヤラ等の樹皮剥ぎや下層植生の衰退等が見られ、被害レベルは3となっている。また、スズタケ群落の開花による枯損・衰退のため、植生率が急減している(平成29年調査時点)。林内には、ツチビノキ、フクオウソウ、ササユリ等の希少種の生育が確認されており、今後シカ食害が懸念される。</p> <p>以上のことから、今後の対応策としては、森林の更新や生態系への影響及び表土流亡への懸念を考慮し、さらに希少種保護の観点及びスズタケ群落等下層植生の回復方策の検討が課題である。</p> <p>このため、既存植生保護柵の定期点検及び、増設の検討や単木防護による天然更新の促進、スズタケ群落の回復、従来から行われてきたシカ個体数管理の継続、保存対象種の天然更新等の各種対策を行うため、緊急に対応が必要なものから対策を講じるものとする。</p>		
モニタリングの実施間隔 及び留意事項	5年		
法令等に基づく指定 概況	保安林(水源涵養)、祖母傾国定公園(特3)、祖母傾県立自然公園(普通)		
その他留意事項	旧名称「鬼の目山学術参考保護林」 昭和 61. 4. 1設定		

## 管理方針書 希少 - 45

名 称	おおいしかしやま 大石榎山アカガシ等希少個体群保護林	管理(支)署	大分森林管理署
面 積 (ha)	18.34	設定年月日	平成24年3月23日
		変更年月日	平成30年4月1日再編
位置及び区域 (森林生態系保護地域及び生物 群集保護林においては 保存地区、保全利用地区それぞ れの位置及び区域)	大分県 豊後大野市 宮尾国有林 2070 は 林小班		
保護・管理を図るべき 森林生態系、個体群に 関する事項	ミヤマシキミ・アカガシ群集等を保護するとともに、学術研究等に資する。		
保護・管理及び利用に 関する事項	<p>大石榎山アカガシ等希少個体群保護林は、祖母山の北東山稜部に位置し、周囲はスギ・ヒノキ人工林であるが、当該地域は全域がミヤマシキミ・アカガシ群集からなり、アカガシ・ウラジロガシ・ケヤキ等の大径木が生育するとともに、スギラン・マツラン・セッコク等の希少植物も生育している。</p> <p>祖母山系の標高500～800mまでは自然林が残されており、豊後大野市の天然記念物及び「原生林もしくはそれに近い自然林」として、特定植物群落にも指定されている。大分県内のアカガシ林としては最も広い面積が残されており、自然性の高い「ミヤマシキミ・アカガシ群集」が残されている貴重な地域である。</p> <p>標高：610～850m、傾斜：20°～30°、傾斜方位：北～北東、地質：火山性溶解岩（輝石安山岩・凝灰角礫岩）、 土壌型：褐色森林土（BB・BD・BD(d)型）、林齢：160年以上</p> <p>極盛相にあるものは、原則として人手を加えずに自然の推移に委ねる。遷移の途中相にあるものは、その現状の維持に必要な森林施業は行うことができるものとする。</p> <p>なお、モニタリング調査、学術研究その他公益上必要な行為、非常災害のため応急措置として行う行為、標識類の設置等、軽微な施設の設置、その他法令等の規定に基づき行うべき行為はできるものとする。</p>		
モニタリングの実施間隔 及び留意事項	5年		
法令等に基づく指定 概況	保安林(水源涵養)		
その他留意事項	「保護林制度の改正について」(平成27年9月28日付け27林国経第49号)に伴い、平成30年4月1日再編(旧大石榎山植物群落保護林)		



## 統合するべきか検討

蜷尻 希少  
楠見 希少  
八久保 希少



## 蜷尻ツブラジイ等遺伝資源希少個体群保護林



保護林遠景



保護林近景



イチイガシの巨木

楠見イチイガシ遺伝資源希少個体群保護林



保護林遠景

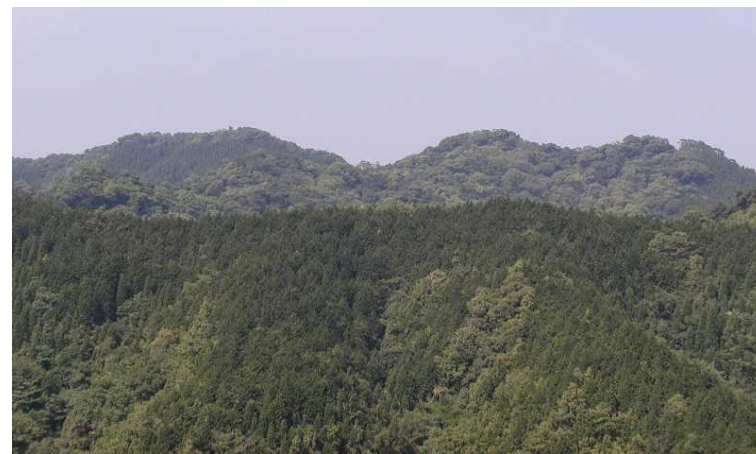


イチイガシの巨木



保護林遠景

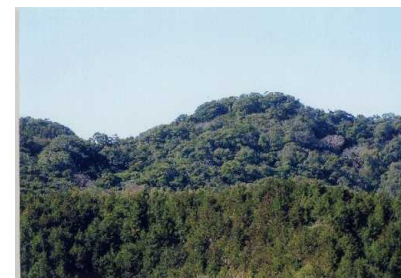
八久保イチイガシ等遺伝資源希少個体群保護林



保護林遠景



イチイガシの巨木



保護林近景

管理方針書 希少 - 53

名 称	になしり 蜷尻ツブラジイ等遺伝資源希少個体群保護林	管理(支)署	宮崎森林管理署
面 積 (ha)	59.14	設定年月日	平成2年3月31日
		変更年月日	平成30年4月1日再編
位置及び区域 (森林生態系保護地域及び生物 群集保護林においては 保存地区、保全利用地区それぞ れの位置及び区域)	宮崎県 宮崎市 高岡町 蜷尻国有林 228 は、に 林小班		
保護・管理を図るべき 森林生態系、個体群に 関する事項	ツブラジイ、スタジイ、イスノキ、イヌマキ、イチイガシの保存		
保護・管理及び利用に 関する事項	<p>蜷尻ツブラジイ等遺伝資源希少個体群保護林は、国有林内の中央部に位置し、近くには高房台風致探勝林として指定された箇所もある。林相は、ツブラジイ、スタジイ、イスノキ、イヌマキ、イチイガシ等の針広混交林となっている。この森林を、地元高岡町はレクリエーションの森「高房台いこいの森」に指定しており、地域住民のレクリエーションの場として利用されている。また、ここからの眺望は素晴らしく、宮崎周辺、日向灘の風景は絶景である。また、森林は、東南アジアからの渡り鳥「サンコウチョウ」の繁殖の場にもなっている。</p> <p>標高:200m、傾斜:中、地質:古第三紀頁岩、土壌型:BC、林齢:85~130年生以上</p> <p>禁 伐 被害木の除去、災害防止及び学術研究のための伐採はできるものとする。</p>		
モニタリングの実施間隔 及び留意事項	5年		
法令等に基づく指定 概況	保安林(保健)、鳥獣保護区(普通)		
その他留意事項	「保護林制度の改正について」(平成27年9月28日付け27林国経第49号)に伴い、平成30年4月1日再編(旧蜷尻林木遺伝資源保存林)		

管理方針書 希少 - 54

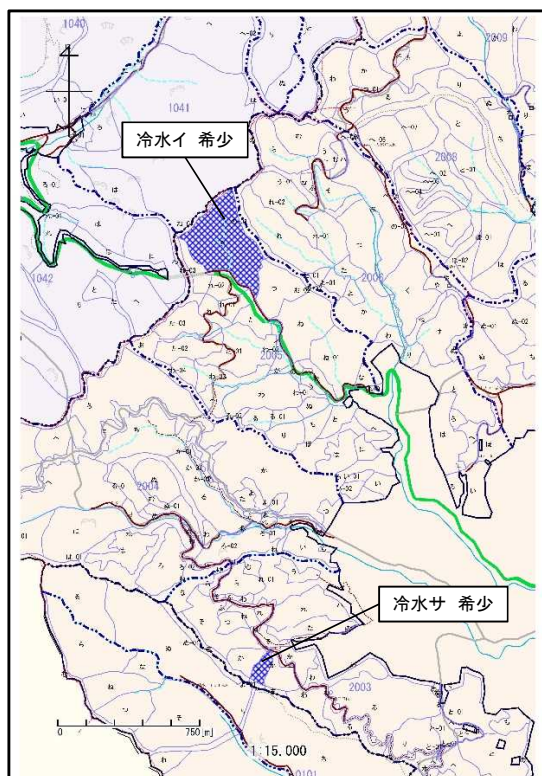
名 称	楠見イチイガシ遺伝資源希少個体群保護林	管理(支)署	宮崎森林管理署
面 積 (ha)	4.70	設定年月日	平成2年3月31日
		変更年月日	平成30年4月1日再編
位置及び区域 (森林生態系保護地域及び生物 群集保護林においては 保存地区、保全利用地区それぞ れの位置及び区域)	宮崎県 宮崎市 高岡町 楠見国有林 235 と 林小班		
保護・管理を図るべき 森林生態系、個体群に 関する事項	イチイガシの保存		
保護・管理及び利用に 関する事項	<p>楠見イチイガシ遺伝資源希少個体群保護林は、宮崎市高岡町内の国道10号線の南方に位置し、近傍には、国指定天然記念物「去川の大イチョウ」や薩摩街道の去川関所跡等がある。保護林の周囲はほとんどが国有林であり、林相はスギ人工林が主で、スギ林に囲まれてイチイガシの広葉樹林がある。以前はイチイガシの母樹林として種子の採取が行われていた。</p> <p>標高:100m、 傾斜:中、 地質:頁岩、 土壌BID(d)、 林齢:120年生以上</p> <p>禁 伐 被害木の除去、災害防止及び学術研究のための伐採はできるものとする。</p>		
モニタリングの実施間隔 及び留意事項	5年		
法令等に基づく指定 概況	保安林(水源涵養)		
その他留意事項	旧名称「楠見学参」面積4.70ha 設定 昭和 8. 3. 31 「保護林制度の改正について」(平成27年9月28日付け27林国経第49号)に伴い、平成30年4月1日再編(旧楠見林木遺伝資源保存林)		

## 管理方針書 希少 - 52

名 称	はちくぼ 八久保イチイガシ遺伝資源希少個体群保護林	管理(支)署	宮崎森林管理署
面 積 (ha)	8.21	設定年月日	平成2年3月31日
		変更年月日	平成30年4月1日再編
位置及び区域 (森林生態系保護地域及び生物 群集保護林においては 保存地区、保全利用地区それぞ れの位置及び区域)	宮崎県 宮崎市 高岡町 八久保国有林 202 と 林小班		
保護・管理を図るべき 森林生態系、個体群に 関する事項	イチイガシの保存		
保護・管理及び利用に 関する事項	<p>八久保イチイガシ遺伝資源希少個体群保護林は、宮崎大学演習林の北部に位置し、周囲は全て国有林である。林相は、スギ、ヒノキ人工林に囲まれたイチイガシ等の広葉樹林であり、周辺には天然生林は残っておらず保護林としての機能が期待される。</p> <p>標高:200mm、 傾斜:急、 地質:古第三紀頁岩、 土壌型:BD(d)、 林齢:150年生以上</p> <p>禁 伐 被害木の除去、災害防止及び学術研究のための伐採はできるものとする。</p>		
モニタリングの実施間隔 及び留意事項	5年		
法令等に基づく指定 概況	保安林(水源涵養)		
その他留意事項	旧名称「八久保学参」面積8.21ha 設定 昭和 40. 3. 31 「保護林制度の改正について」(平成27年9月28日付け27林国経第49号)に伴い、平成30年4月1日再編(旧八久保林木遺伝資源保存林)		

## 統合すべきか検討

冷水イ 希少  
冷水サ 希少



## 冷水サツマシダ等希少個体群保護林



保護林遠景



保護林近景

## 冷水イチイガシ等遺伝資源希少個体群保護林



保護林遠景



保護林近景



チャンチンモドキの巨木

## 管理方針書 希少 - 61

名 称	ひやみず 冷水イチイガシ等遺伝資源希少個体群保護林	管理(支)署	北薩森林管理署
面 積 (ha)	13.10	設定年月日	平成3年3月31日
		変更年月日	平成30年4月1日再編
位置及び区域 (森林生態系保護地域及び生物 群集保護林においては 保存地区、保全利用地区それぞ れの位置及び区域)	鹿児島県 伊佐市 冷水国有林 2005 そ 林小班		
保護・管理を図るべき 森林生態系、個体群に 関する事項	<p>本保護林は、鹿児島県北部の伊佐市の西部で、国道267号線と出水市内の国道447号線とを結ぶ県道の間差点に、これを横断して位置する。標高350m～400mの南東向きの緩斜地で低山地帯となっている。林相は、天然生林分で、タブノキ、アカガシ、ツブラジイ、イスノキ、イチイガシ、シラカシ等の照葉樹林で、林齢90年生以上が生育しており、川内川上流域に分布する暖帯林の代表的林分である。谷筋には、環境省RDB絶滅危惧ⅠB類のチャンチンモドキの大径木が数本確認される。イチイガシ、アカガシ、シラカシ、イスノキ、タブノキ、ツブラジイ等の個体群の持続性を向上させることを目的する。</p> <p>標高:400m、傾斜:中、地質:古第三紀砂岩、土壌型:BC、林齢90年生以上 H30.4.1再編: 旧保護林名称「冷水林木遺伝資源保存林」所在区域: 上記林小班と同様</p>		
保護・管理及び利用に 関する事項	<p>保護・管理及び利用に関する基本的な事項については、保護林設定管理要領(平成27年9月28日付け27林国経第49号)に定められた希少個体群保護林の取扱い方針に従う。</p> <p>これに加え、本保護林については、これまでの保護林モニタリング調査結果を踏まえて取り扱うこととする。</p> <p>平成20、24、29年度の調査によれば、毎木調査では現状維持、保護林の要件を満たしているものの、シカ被害レベルは3で、過年度調査及び現況から過去の激しいシカ被害や忌避植物の増加が確認されている。しかし、新たなシカの被害木等痕跡は確認されなかったため(H29年度調査時点)、被害は収束してきていると判断される。下層植生回復のため、植生保護柵の設置やシカ個体数の管理に努めるほか、保護対象種等の単木的防護を実施することや、希少種チャンチンモドキも含めて天然更新の促進等、保護林の森林内部構造や多様性を回復する対策を検討する。また、周辺のシカ個体群動向を把握し、被害の未然防止に努める。</p>		
モニタリングの実施間隔 及び留意事項	5年		
法令等に基づく指定 概況	保安林(水源涵養)		
その他留意事項	旧名称「冷水学術参考保護林」 昭和 46. 4. 1 設定		

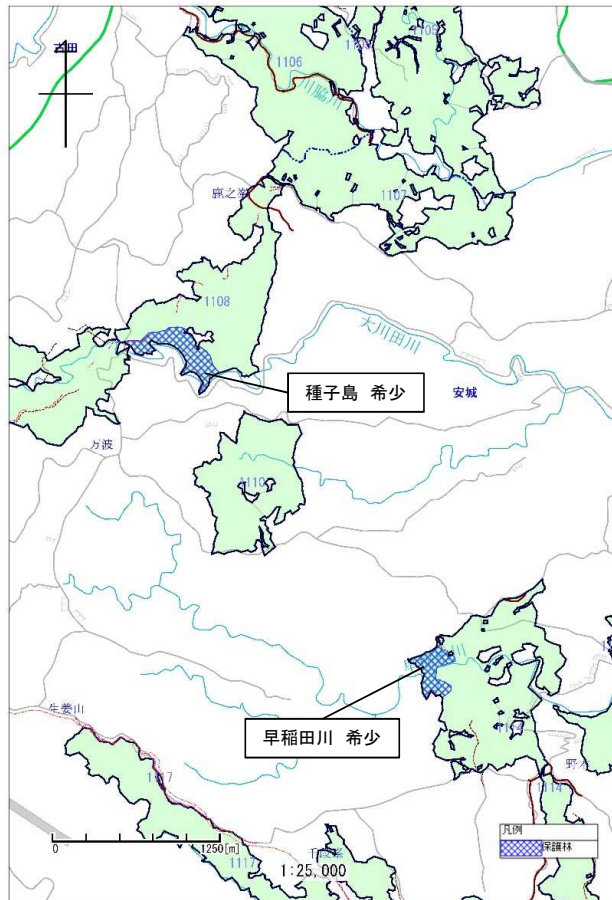
## 管理方針書 希少 - 62

名 称	ひやみず 冷水サツマシダ等希少個体群保護林	管理(支)署	北薩森林管理署
面 積 (ha)	1.25	設定年月日	平成3年3月31日
		変更年月日	平成30年4月1日再編
位置及び区域 (森林生態系保護地域及び生物 群集保護林においては 保存地区、保全利用地区それぞ れの位置及び区域)	鹿児島県 伊佐市 冷水国有林 2003 よ 林小班		
保護・管理を図るべき 森林生態系、個体群に 関する事項	<p>本保護林は、鹿児島県北部の伊佐市南西部に位置し、標高300～350mの北東向き傾斜地の低山地帯である。林相は、川内川流域に多く分布するカン類、シイ類を主体とする広葉樹林分で暖帯林の代表的林分である。また、林内には我が国における保護上重要な植物、環境省RDB絶滅危惧ⅠB類に位置づけられる「サツマシダ」、コマチイワヒトデ、エダウチホングウシダ、ホソバイタチシダ、ツルホラゴケ等約70種類のシダが生育しており貴重な地域である。川内川上流の流域に分布する暖帯林(カン類、シイ類、その他広葉樹)の代表的林分及び希少種「サツマシダ」等の保存を図るための森林施業、管理技術の発展、学術研究等に資することを目的とする。</p> <p>標高:400m、傾斜:中、地質:古第三紀砂岩、土壌型:BC、林齢:150年生以上</p>		
保護・管理及び利用に 関する事項	<p>保護・管理及び利用に関する基本的な事項については、保護林設定管理要領(平成27年9月28日付け27林国経第49号)に定められた希少個体群保護林の取扱い方針に従う。</p> <p>これに加え、本保護林については、これまでの保護林モニタリング調査結果を踏まえて取り扱うこととする。</p> <p>平成20、24、29年度の調査によれば、毎木調査では現状維持、保護林の要件を満たしているものの、シカ被害レベルは3で、過年度調査及び現況から過去の激しいシカ被害や忌避植物の増加が確認されている。新たなシカの被害木等痕跡は確認されておらず(H29年度調査時点)、被害は収束しつつあると判断される。しかし、現況においてサツマシダへの直接的食害は認められないものの、種多様性の低下が確認されるため、保護対象種サツマシダ等シダ植物や着生及び地生ラン等希少種の生育に与える影響が懸念されることから、これらの保全も視野に森林内部構造や下層植生の種多様性回復、持続性の確保のために植生保護柵の設置や周辺のシカ個体群動向を把握し、必要に応じたシカ個体数の管理等被害の未然防止に努めるなど保護対策を検討する。</p>		
モニタリングの実施間隔 及び留意事項	5年		
法令等に基づく指定 概況	保安林(水源涵養)		
その他留意事項	保護林制度の改正に伴い、平成30年4月1日再編(旧冷水植物群落保護林)		



## 統合すべきか検討

種子島 希少  
早稲田川 希少



## 種子島ヤクタネゴヨウ等希少個体群保護林



保護林遠景



保護林近景

## 早稲田川ヤクタネゴヨウ希少個体群保護林



保護林近景



ヤクタネゴヨウの芽生え

管理方針書 希少 - 72

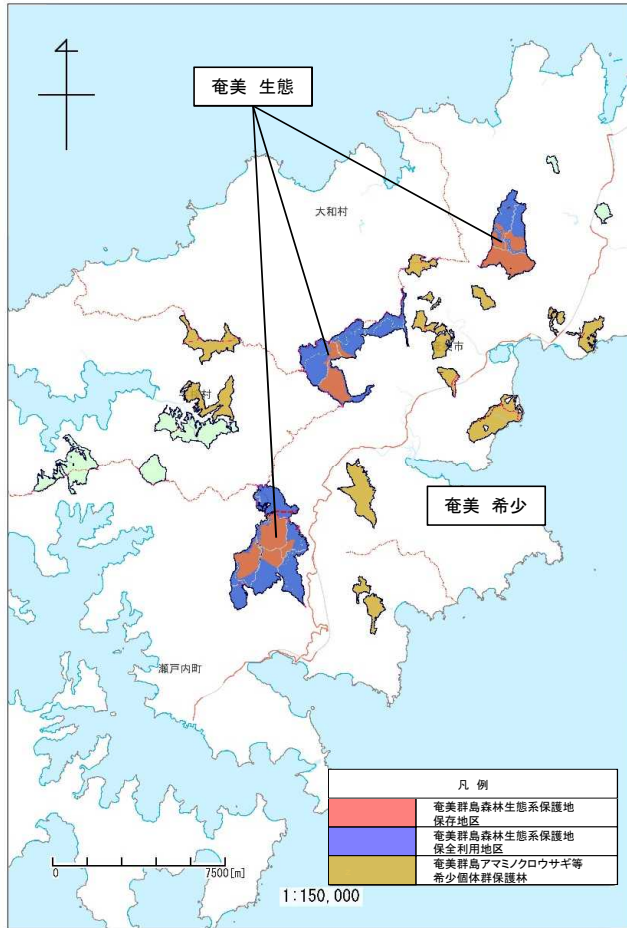
名 称	たねがしま 種子島ヤクタネゴヨウ等希少個体群保護林	管理(支)署	屋久島森林管理署
面 積 (ha)	12.91	設定年月日	平成3年3月31日
		変更年月日	平成30年4月1日再編
位置及び区域 (森林生態系保護地域及び生物 群集保護林においては 保存地区、保全利用地区それぞ れの位置及び区域)	鹿児島県 西之表市 中割国有林 1108 ㊦ 林小班		
保護・管理を図るべき 森林生態系、個体群に 関する事項	「ヤクタネゴヨウ」その他種子島の代表的天然生林の保存と森林施業、管理技術の発展、学術研究等に資する。		
保護・管理及び利用に 関する事項	<p>種子島ヤクタネゴヨウ等希少個体群保護林は、種子島のほぼ中央部で、西之表市の南部に位置している。林相は、シイ類、イスノキ、タブノキ等の老齢天然生林で広葉樹を主体とした林分であり、斜面上部に「ヤクタネゴヨウ」の大径木が点在している。また、イヌマキ、ナギ等があり、暖帯南部の多雨林的林相を呈している。</p> <p>標高:200m、傾斜:中、地質:中生層硬砂岩、土壌型:BD(d)、林齢:160年生以上</p> <p>禁 伐 極盛相にあるものは原則として自然の推移にゆだね、遷移の途中にあるものは現状の維持に必要な森林施業を行う。また、モニタリング、学術研究その他公益上必要な行為、非常災害のため応急措置として行う行為、軽微な施設の設置、その他法令等の規定に基づき行う。</p>		
モニタリングの実施間隔 及び留意事項	5年		
法令等に基づく指定 概況	保安林(水源涵養)		
その他留意事項	旧種子島学参 昭和23年3月31日 「保護林制度の改正について」(平成27年9月28日付け27林国経第49号)に伴い、平成30年4月1日再編(旧種子島植物群落保護林)		

## 管理方針書 希少 - 73

名 称	わせだがわ 早稲田川ヤクタネゴヨウ希少個体群保護林	管理(支)署	屋久島森林管理署
面 積 (ha)	7.13	設定年月日	平成18年3月23日
		変更年月日	平成30年4月1日再編
位置及び区域 (森林生態系保護地域及び生物 群集保護林においては 保存地区、保全利用地区それぞ れの位置及び区域)	鹿児島県 西之表市 安城 木成国有林 1114 へ 林小班		
保護・管理を図るべき 森林生態系、個体群に 関する事項	<p>ヤクタネゴヨウは、屋久島と種子島のみ自生する五葉松の種で、レッドデータブックに絶滅危惧 I B類に記載され、種子島においては、これまで100本程度しか確認されておらず、マツ材線虫病等により被害も進行し絶滅が危惧されている状況にある。</p> <p>早稲田川のヤクタネゴヨウ群落は、平成16年度に実施した「種子島ヤクタネゴヨウ保護林調査」においても遺伝子の多様性に富むことが推測され、かつ、種の保存の可能性が高いと評価を受け、植物学上重要である群落を早急に保護を図るために設定した。</p>		
保護・管理及び利用に 関する事項	<p>早稲田川ヤクタネゴヨウ希少個体群保護林は、種子島中心部の太平洋沿い、西之表市の南部に位置している。林相は、ヤクタネゴヨウ、スギ、クロマツ、その他広葉樹である。「ヤクタネゴヨウ」の大径木は点在している状況である。林内は暖帯南部の多雨林的林相を呈している。</p> <p>標高:50~100m、 傾斜:中、 地質:中生層硬砂岩、 土壌型:BC、 林齢:45年生</p> <p>ヤクタネゴヨウを群落として保護・保全していくためには、ヤクタネゴヨウを含む周辺生態系の管理が不可欠であること、早稲田川流域のヤクタネゴヨウ群落はマツ材線虫病危険地域にあることから、なお書き等に留意して生育環境の改善及び保全に必要な森林施業等の保護及び管理を行うこととする。</p> <p>なお、早稲田川ヤクタネゴヨウ希少個体群保護林は、絶滅危惧 I B類(EN)であることから、関係法令の規定に基づく行為は実施できるものとする。</p>		
モニタリングの実施間隔 及び留意事項	5年		
法令等に基づく指定 概況	保安林(水源涵養)		
その他留意事項	「保護林制度の改正について」(平成27年9月28日付け27林国経第49号)に伴い、平成30年4月1日再編(旧早稲田川ヤクタネゴヨウ植物群落保護林)		

## 統合すべきか検討

奄美 生態  
奄美 希少



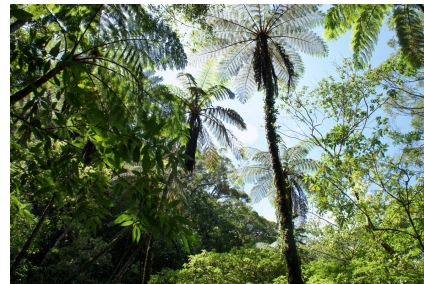
## 奄美群島森林生態系保護地域



保護林遠景



保護林内部



保護林近景



保護林内部

## 奄美群島アマミノクロウサギ等希少個体群保護林



保護林遠景



保護林近景



オオトラツグミ



アマミヤマシギ



アマミノクロウサギ

### 管理方針書 生態 - 3

名 称	あまみぐんどう 奄美群島森林生態系保護地域	管理(支)署	鹿児島森林管理署
面 積 (ha)	4, 819. 87 保存地区 : 2252. 44 保全利用地区 : 2567. 27	設定年月日	平成25年3月15日
		変更年月日	平成30年4月1日再編
位置及び区域 (森林生態系保護地域及び生物 群集保護林においては 保存地区、保全利用地区それぞ れの位置及び区域)	鹿児島県 奄美市外 金作原国有林外 202~204、210~213、217~223 林班 231~236、240~251、254~260 林班		
保護・管理を図るべき 森林生態系、個体群に 関する事項	奄美群島でしか見られない特徴を持つ原生的な天然林(亜熱帯性広葉樹)及びアマミノクロウサギやルリカケスなどの大陸遺存種が生育・生息している重要性の高い地域を保護すること。		
保護・管理及び利用に 関する事項	<p>奄美群島森林生態系保護地域は、鹿児島県奄美大島(奄美市、宇検村、大和村、瀬戸内町)と徳之島(徳之島町、天城町、伊仙町)に位置している。</p> <p>奄美大島の主要な山系は、島の中央からやや西側に位置する湯湾岳(694m)、油井岳(483m)、小川岳(528m)松長山(455m)、鳥ヶ峰(467m)等、400m以上の山々が脊柱部を構成している。また、河川については、太平洋の住用湾に注いでいる住用川、大川、東シナ海に注ぐ河内川、名音川などがあるが、ほとんどが流路延長の短い急流河川である。</p> <p>徳之島の主要な山系は、北部の天城岳(533m)、三方通岳(496m)、大城山(333m)を主峰とした比較的急峻な山が連なり、島の中央部では井之川岳(645m)、美名田山(438m)、島の南部に剝岳(382m)、犬田布岳(417m)と続く山塊が郡をなしている。また、河川については天城町の秋利神川のほか、徳之島町の亀徳川、伊仙町の鹿浦川などがある。</p> <p>保存地区 (2,252. 55ha)・・・禁伐、原則として人手を加えず自然の推移に委ねる。 保全利用地区(2,567. 32ha)・・・木材生産を目的とする森林施業は行わない。ただし、天然木の保存を図るために一体的に保全・管理することが相応なスギ林分については、複層林施業等を行うことができるものとし、将来的には天然林への移行を図るよう取り扱うこととする。</p>		
モニタリングの実施間隔 及び留意事項	5年		
法令等に基づく指定 概況	保安林(水源涵養・保健)、奄美群島国定公園(特保)、史跡名勝天然記念物、鳥獣保護区(特別保護・普通)		
その他留意事項	管理に関する具体の対応については、学識経験者等からなる保全管理委員会を設置するとともに、委員会の意見を聞きながら実施する。		
	旧神屋林木遺伝資源保存林・・・面積160. 96ha(平成4年度設定)、旧三京林木遺伝資源保存林・・・面積98. 83ha(平成4年度設定) 奄美群島森林生態系保護地域計画(平成25年3月) 「保護林制度の改正について」(平成27年9月28日付け27林国経第49号)に伴い平成30年4月1日再編(旧奄美群島森林生態系保護地域)		

## 管理方針書 希少 - 67

名 称	あまみぐんとう 奄美群島アマミノクロウサギ等希少個体群保護林	管理(支)署	鹿児島森林管理署
面 積 (ha)	1, 334. 29	設定年月日	平成25年3月15日
		変更年月日	平成30年4月1日再編
位置及び区域 (森林生態系保護地域及び生物 群集保護林においては 保存地区、保全利用地区それ ぞれの位置及び区域)	鹿児島県 奄美市外 205～209、214～216、224、229、230 林班		
保護・管理を図るべき 森林生態系、個体群に 関する事項	奄美群島森林生態系保護地域以外の国有林野であって、アマミノクロウサギやトゲネズミ類など奄美群島を特徴づける希少種や固有種の繁殖地又は生息地であり、これらの動物種を優先的に保護を図る必要のある箇所を設定。		
保護・管理及び利用に 関する事項	<p>奄美群島アマミノクロウサギ等希少個体群保護林は、奄美大島の中部に点在する地域であり、230林班の一部を除き、水源かん養保安林に指定されている。</p> <p>繁殖又は生息する動物の生態特性を踏まえた保護及び管理を行うこととし、このために必要な森林施業又は行為は行うことができる。また、モニタリング、学術研究その他公益上の事由により必要と認められる行為、非常災害のため応急措置、標識類の設置、自然観察教育のための軽微な施設の設置、その他法令等の規定に基づき行うべき行為はできるものとする。</p> <p>なお、保護管理の具体的検討等に当たっては、別途、学識者等の意見を聞きながら実施する。</p>		
モニタリングの実施間隔 及び留意事項	5年		
法令等に基づく指定 概況	保安林(水源涵養)、奄美群島国定公園(特保)、鳥獣保護区(特別保護・普通)、史跡名勝天然記念物		
その他留意事項	<p>奄美大島・徳之島でしか見られない特徴的は森林生態系を有する生物群集保護林等については、これらの一部と森林生態系保護地域との間に介在する民有林が一定の管理水準以上(例えば、保護林と同程度の管理水準、又は育成複層林への誘導に向けた取り組みがなされるなど)となることが担保された段階で、森林生態系保護地域の設定に係る所要の手続きを経た上で、森林生態系保護地域の区域に変更することとしている。</p> <p>「保護林制度の改正について」(平成27年9月28日付け27林国経第49号)に伴い、平成30年4月1日再編(旧奄美群島特定動物生息地保護林)</p>		

統合すべきか検討

西表島森林生態系保護地域

船浦ニツパヤシ希少個体群保護林

西表島 生態  
船浦 希少



保護林遠景(ピナイサーラ滝)



マングローブ林



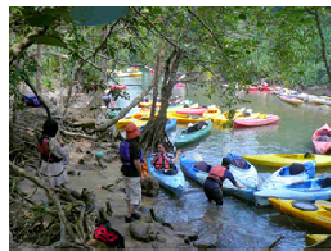
ヤエヤマヤシ群落



スタジイ群落



リュウキュウマツ群落



ヒナイ川のカヌー係留地



保護林の空中写真



ニツパヤシ

## 管理方針書 生態 - 7

名 称	いりおもてしま 西表島森林生態系保護地域	管理(支)署	沖縄森林管理署
面 積 (ha)	22,366.42 保存地区 : 9999.28 保全利用地区 : 12367.14	設定年月日	平成3年3月28日
		変更年月日	平成28年3月2日 平成30年4月1日再編
位置及び区域 (森林生態系保護地域及び生物 群集保護林においては 保存地区、保全利用地区それぞ れの位置及び区域)	沖縄県 八重山郡 竹富町 上原国有林外 101~139、142~208 林班		
保護・管理を図るべき 森林生態系、個体群に 関する事項	原生的な天然林を保存することにより、自然環境の維持、動植物の保護、遺伝資源の保存、学術研究などに役立てるとともに、これらの森林を後世に引き継ぐことにする。		
保護・管理及び利用に 関する事項	<p>西表島森林生態系保護地域は、八重山群島最大の島で、島の周囲は130Km、面積は28,400haあり、国有林は西表島の87% (24,700ha)を占め、亜熱帯林の自然がよく保たれている島である。また、日本列島の常緑広葉樹林帯に属し、地質は新第3紀に属する砂岩、頁岩からなる八重山夾単層群が分布する。林相としては、山地にスダジイ、タブノキ、オキナワウラジロガシ等の優占する照葉樹が広がっており、山頂部の風衝地には、リュウキュウチクが密生している。低地にはガジュマル等が優占する群落がみられ、河口域には、海水の影響を受けマングローブ林が発達している。本地域には特別天然記念物イリオモテヤマネコが生息している。</p> <p>保存地区 ……禁伐 原則として人手を加えずに、自然の推移に委ねる。</p> <p>保全利用地区……木材生産を目的とする森林施業は行わない。 ただし、人工林については将来的には天然林へ移行を図るよう取り扱う。</p>		
モニタリングの実施間隔 及び留意事項	5年		
法令等に基づく指定 概況	保安林(水源涵養・土砂崩壊防備・潮害防備・防風・保健)、西表石垣国立公園(特保、特2)、史跡名勝天然記念物、鳥獣保護区(特別保護)		
その他留意事項	西表島森林生態系保護地域計画(平成24年3月) 旧南風見遺伝資源保存林 面積25.18ha(平成4年度設定) 平成24年 度編入 「保護林制度の改正について」(平成27年9月28日付け27林国経第49 号)に伴い平成30年4月1日再編(旧西表島森林生態系保護地域)	特 徴 植物……スダシイの優占する照葉樹林、ガジュマル等の群落、 メルギ、オヒルギ等のマングローブ林 動物……イリオモテヤマネコ、リュウキュウイノシシ、ヤエヤマ オオコウモリ等の哺乳類、カンムリワシ、リュウキュウ キンバト等の鳥類	



## 管理方針書 希少 - 75

名 称	ふなうら 船浦ニツパヤシ希少個体群保護林	管理(支)署	沖縄森林管理署
面 積 (ha)	4.38	設定年月日	平成15年3月25日
		変更年月日	平成30年4月1日再編
位置及び区域 (森林生態系保護地域及び生物 群集保護林においては 保存地区、保全利用地区それぞ れの位置及び区域)	沖縄県 八重山郡 竹富町 西表国有林 208 は 林小班		
保護・管理を図るべき 森林生態系、個体群に 関する事項	<p>ニツパヤシ(<i>Nypa fruticans</i> Wurm.)は、ヤシ科に属する1属1種で灌木状の雌雄異株のヤシで、フィリピン、インド、マレーシア、ミクロネシアなどの熱帯に分布域を持つ種で、台湾には分布せず、台湾を飛び越えた沖縄県の西表島の船浦と内離島が我が国唯一の自生地ばかりでなく、本種の分布の自生地北限として植物地理学上重要である。</p> <p>船浦のニツパヤシ植物群落の周囲には、特にオヒルギが優勢するほかヤエヤマヒルギやシマシラキなどが発達し、群落のほとんどを遮光していることから、生育状況は全体的に悪化しており、種子の結実も確認されているが実生による個体は確認されていないなど、西表島船浦における群落の消滅が危惧されていることから、保全・保護を図ることとして設定した。</p>		
保護・管理及び利用に 関する事項	<p>船浦ニツパヤシ希少個体群保護林は、西表島船浦部落の南東に位置する208林班は林小班で、マングローブ林の発達したヤシミナト川の河口から約600m程上流の左岸林縁に、約300㎡にわたって生育している。周辺は満潮時に海水が浸る泥湿地帯で、樹高が約5mのオヒルギを優占種とし、ヤエヤマヒルギ、シマシラキの混生したマングローブ林が発達している。</p> <p>ニツパヤシ植物群落周辺の植生は、ニツパヤシ、オオバヒルギ、メヒルギ、ヒルギモドキ、ヒルギダマシ、ミズガンピ、イボタクサギ、アダン、ハテルマギル、テリハボク、クサトベラ等が群生している。</p> <p>標高:0m、 傾斜:平、 地質:沖積層、 土壌型:グライ土、 林齢30年生以上</p> <p>船浦ニツパヤシ群落は、天然記念物に指定されているものの種特性から遷移の途中相の環境において生育する種であることから、群落内で繁殖生育する動植物にも留意しながら、ニツパヤシの生育環境の改善に必要な森林施業等の保護及び管理を行うこととする。</p> <p>なお、船浦ニツパヤシ植物群落は、国指定の天然記念物及び絶滅危惧Ⅱ種(VU)であることから、関係法令の規定に基づく行為は実施できるものとする。</p>		
モニタリングの実施間隔 及び留意事項	5年		
法令等に基づく指定 概況	史跡名勝天然記念物		
その他留意事項	「保護林制度の改正について」(平成27年9月28日付け27林国経第49号)に伴い、平成30年4月1日再編(旧船浦ニツパヤシ植物群落保護林)		